SoftBank

投資家向け説明会
2021年3月期 第３四半期

ソフトバンク株式会社
2021年２月４日

（免責事項）

本資料に含まれる計画、見通し、戦略その他の将来に関する記述は、本資料作成日時点において当社が入手している情報および合理的であると判断している一定の前提に基づいており、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績などは、経営環境の変動などにより、当該記述と大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている当社および当社グループ以外の企業などにかかわる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

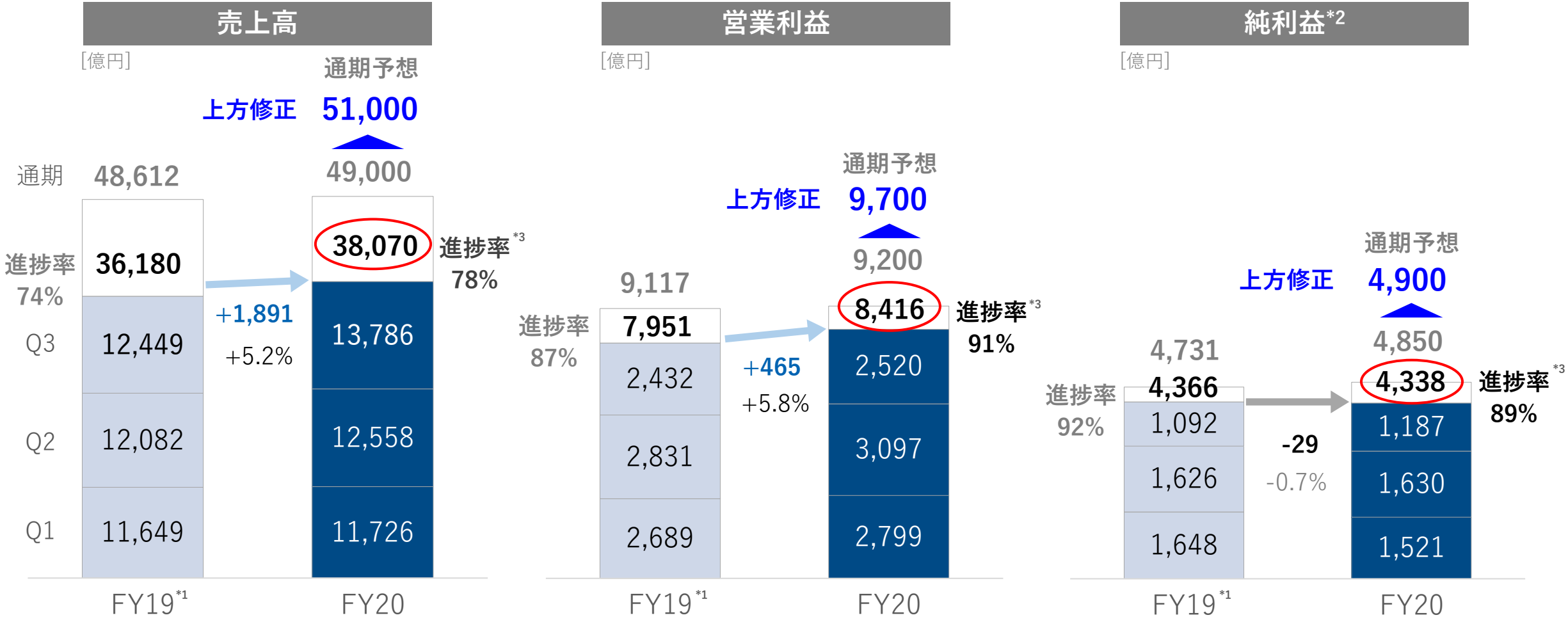
（本資料上記載されている数値の定義について）

本資料上記載されている数値の定義についてはデータシートをご参照ください。

2021年3月期実績（第３四半期）

SoftBank

■ コロナ禍でも増収増益、最高益を目指して順調に進捗。売上・営業利益・純利益の通期予想を上方修正
■ コンシューマ、法人、ヤフー、流通のいずれのセグメントも増収増益で、期初予想を上回る見通し（P7、19参照）

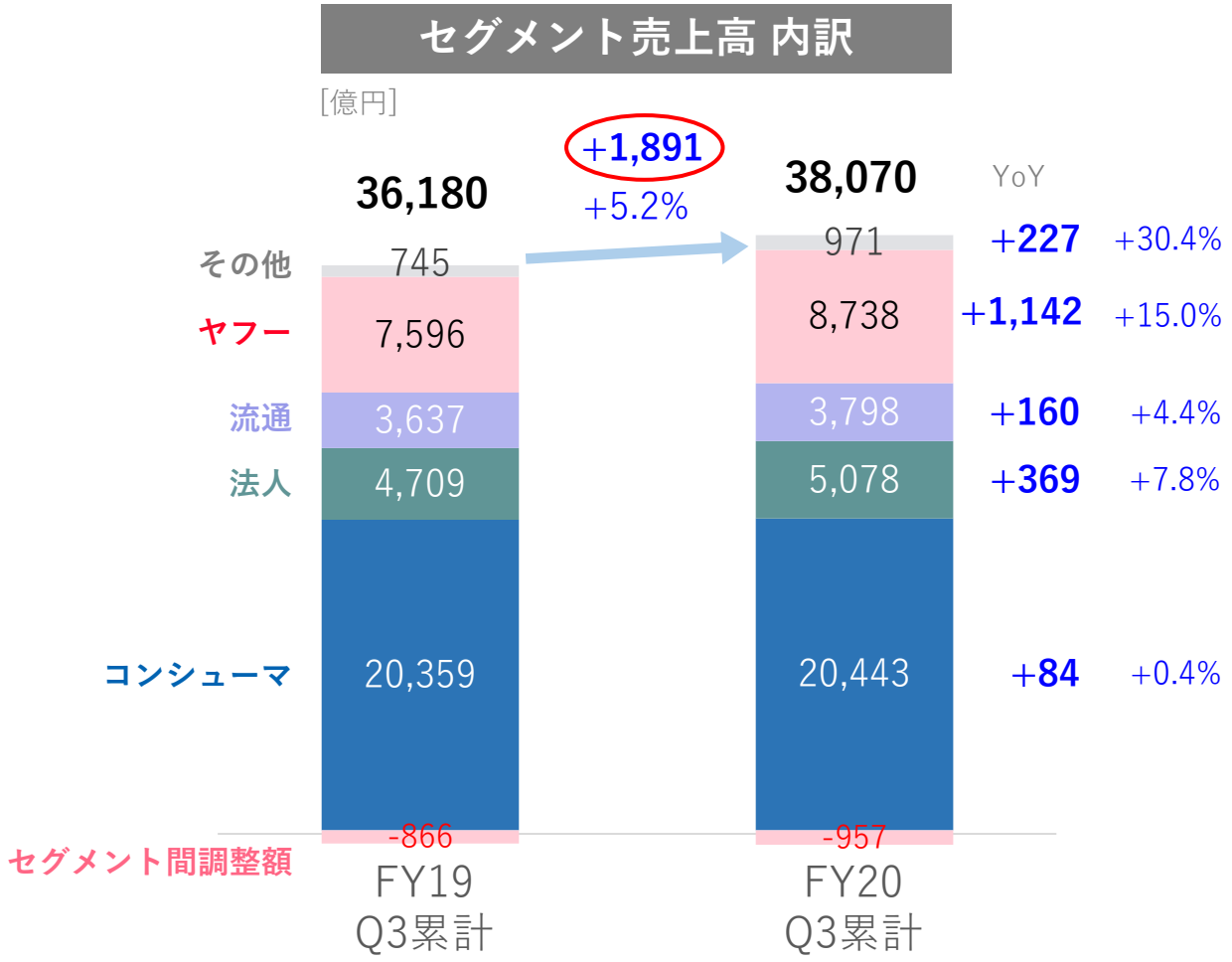


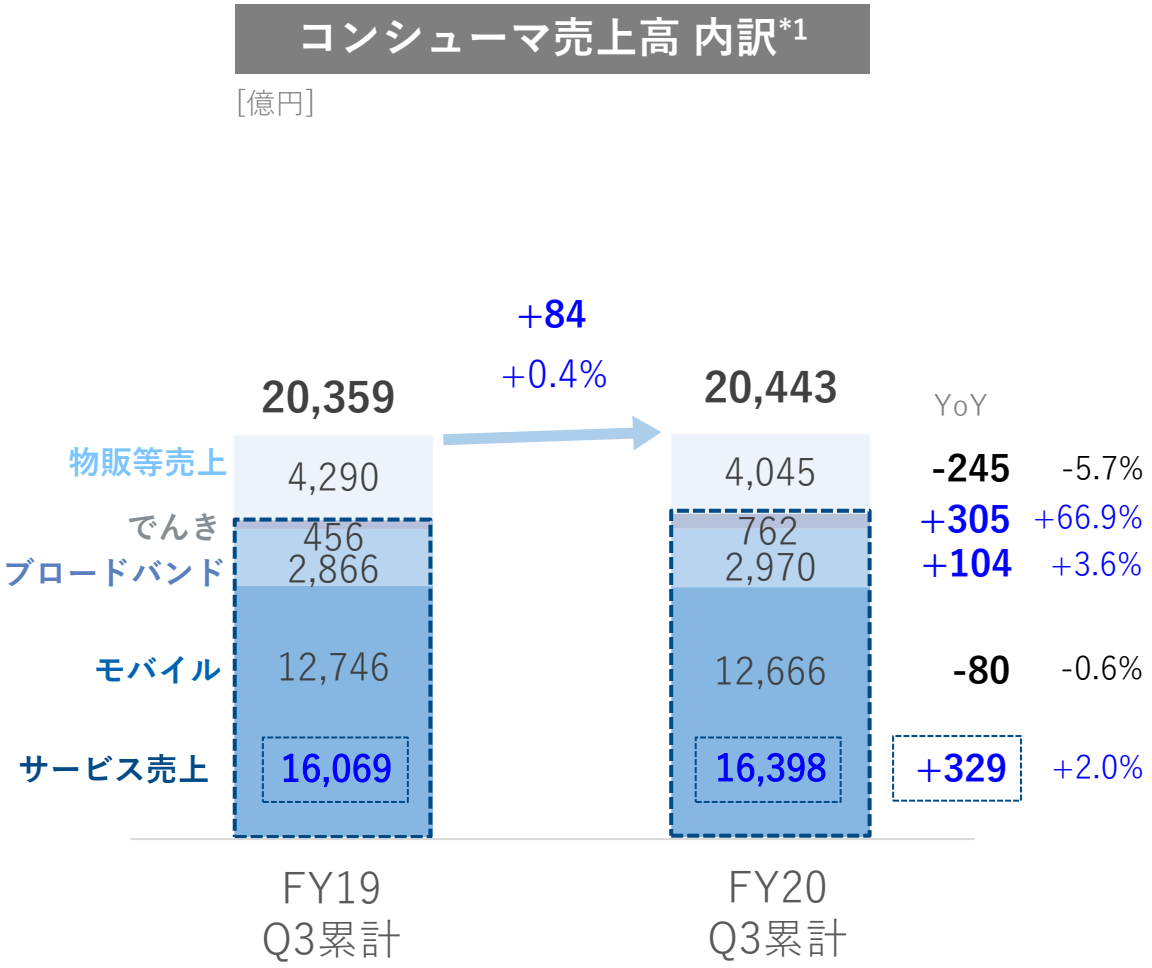
*1：FY19実績は、Zホールディングス株式会社（旧ヤフー株式会社、以下「ZHD」）を連結子会社化した影響の遡及修正を実施（以下本編内において同様）
*2：純利益は、親会社の所有者に帰属する純利益（以下本編内において同様）　*3：期初予想に対する進捗率を記載

売上高 (1/2)

SoftBank

■ 全セグメント増収、ヤフーおよび法人がけん引
■ コンシューマ：物販等売上は端末販売が減少し-245億円、サービス売上は+329億円と堅調



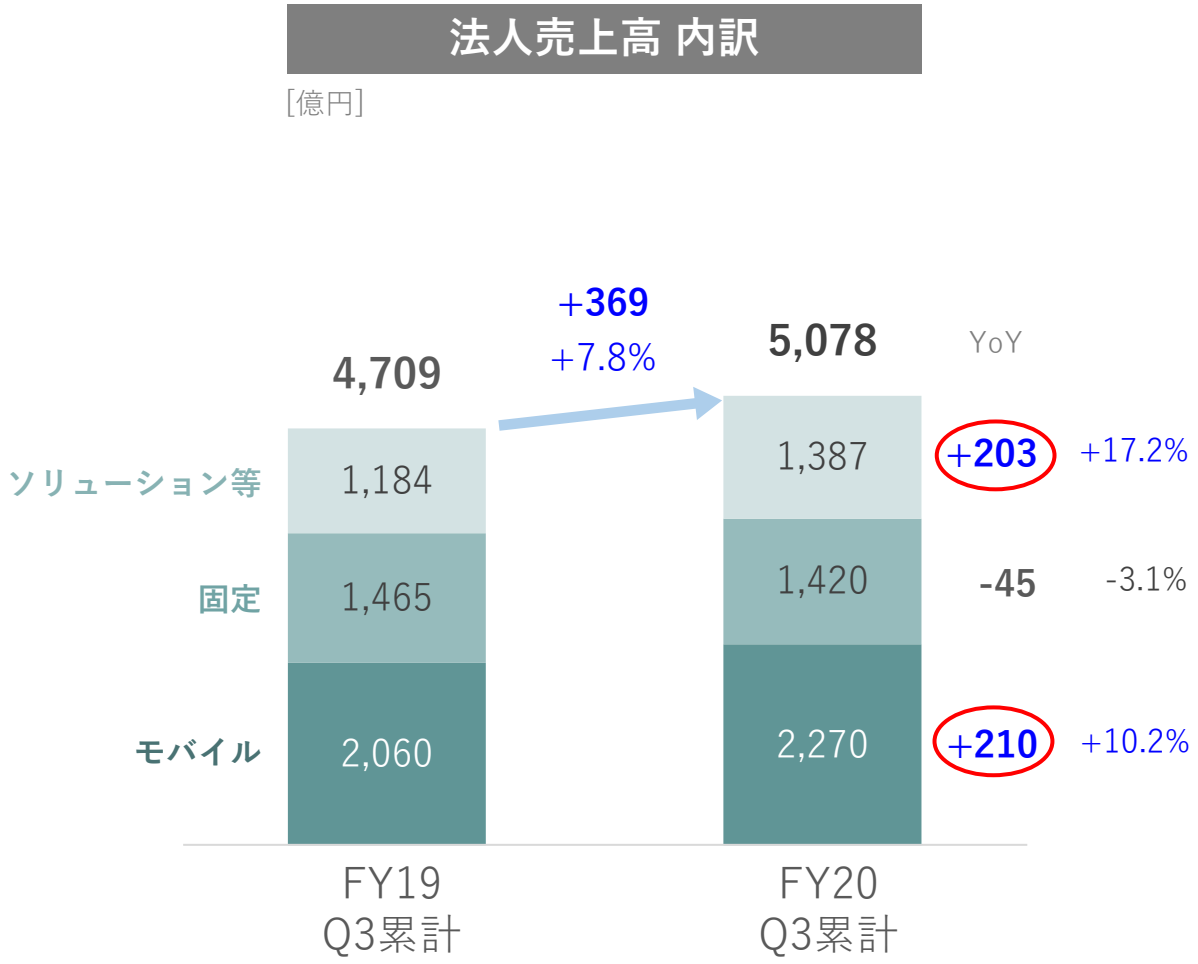


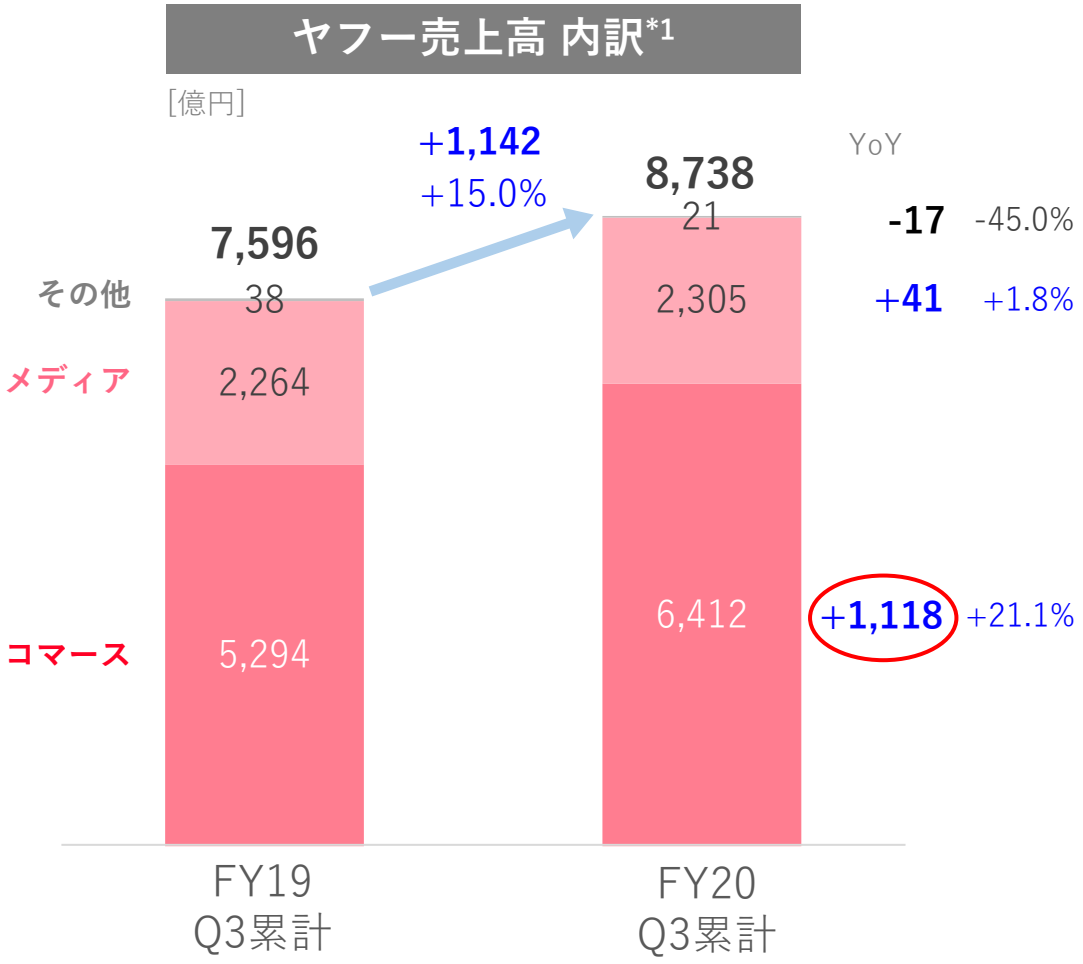
*1：FY20Q1より内訳として「でんき」を新規開示（従前は物販等売上に包含）

売上高 (2/2)

SoftBank

■ 法人：テレワーク需要増加によりソリューション等に加えモバイルが好調
■ ヤフー：２ケタ成長で前期比 +1,142億円 (+15.0%)、コマースが大きく伸長



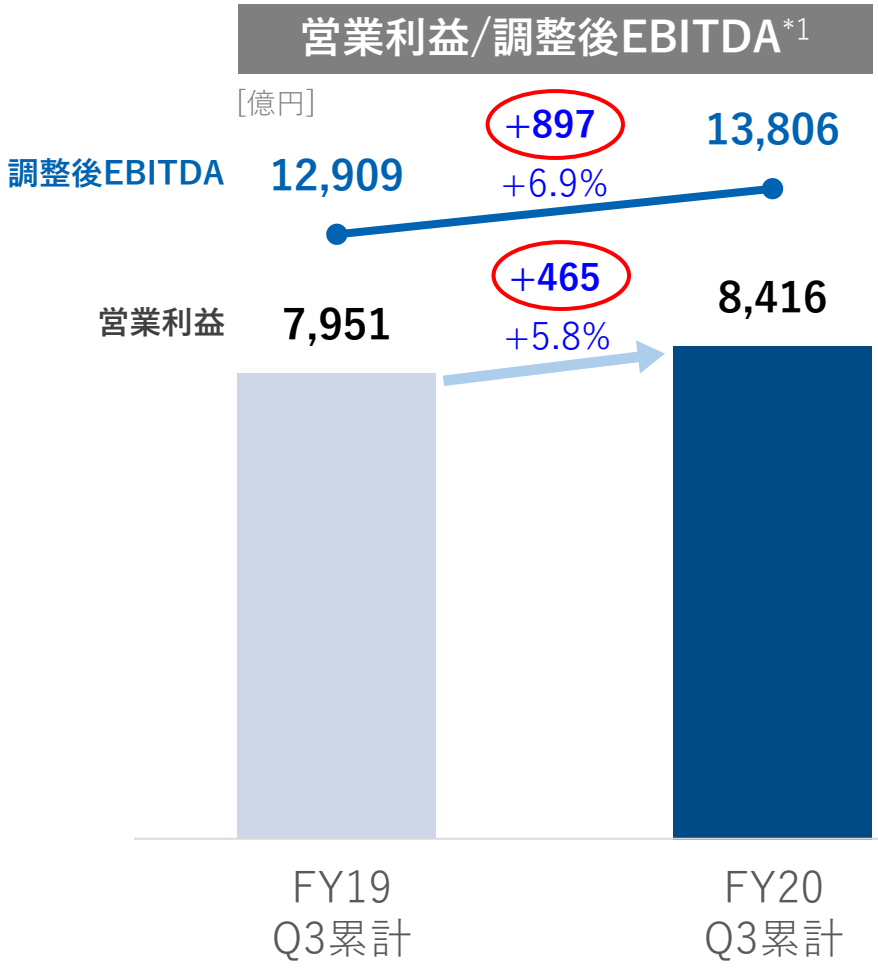


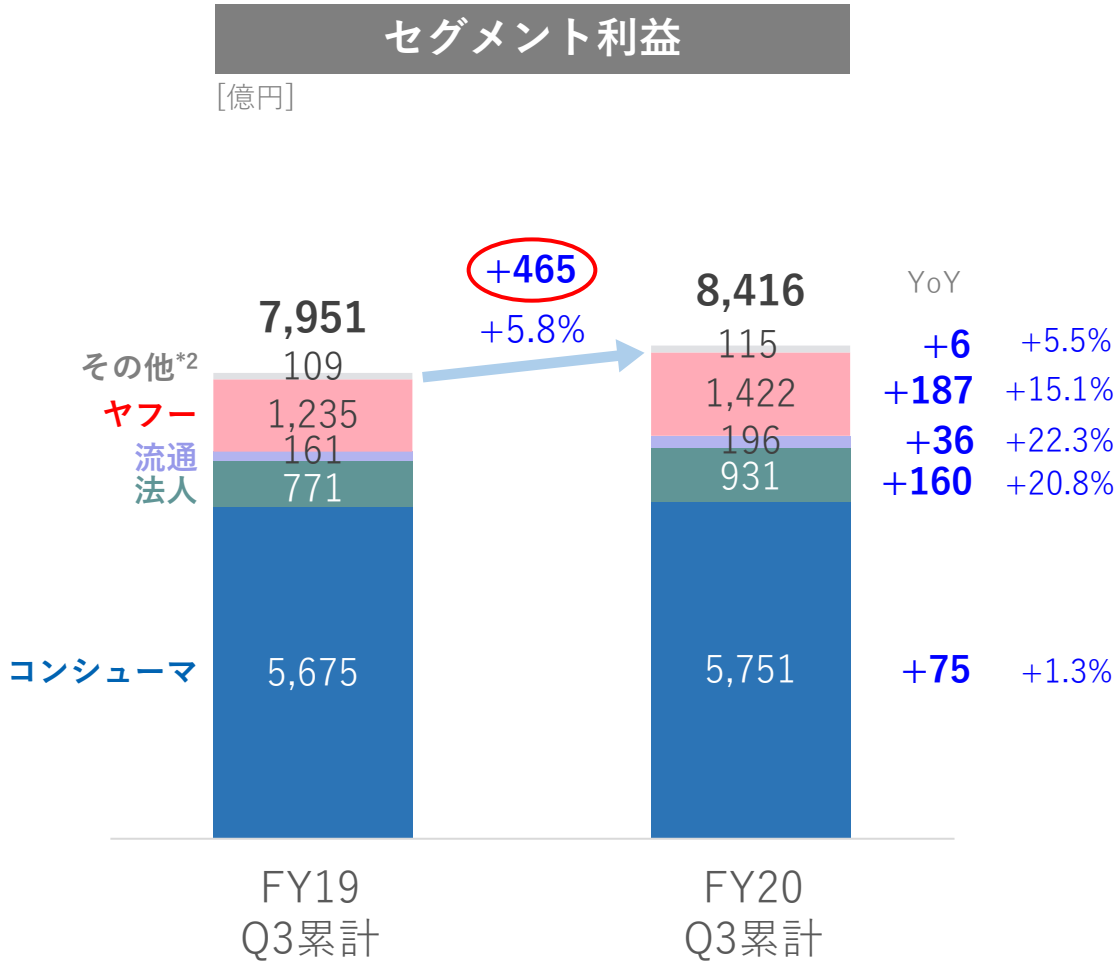
*1：2020年4月に一部のサービスおよび子会社を「コマース」から「メディア」に移換したことに伴い、FY19に遡って修正を反映

営業利益/調整後EBITDA・セグメント利益

SoftBank

- 調整後EBITDAは前期比+897億円（+6.9%）と、営業利益の同+465億円（+5.8%）を上回る伸び
- 全セグメント増益、ヤフーが15.1%および法人が20.8%増益し全体をけん引



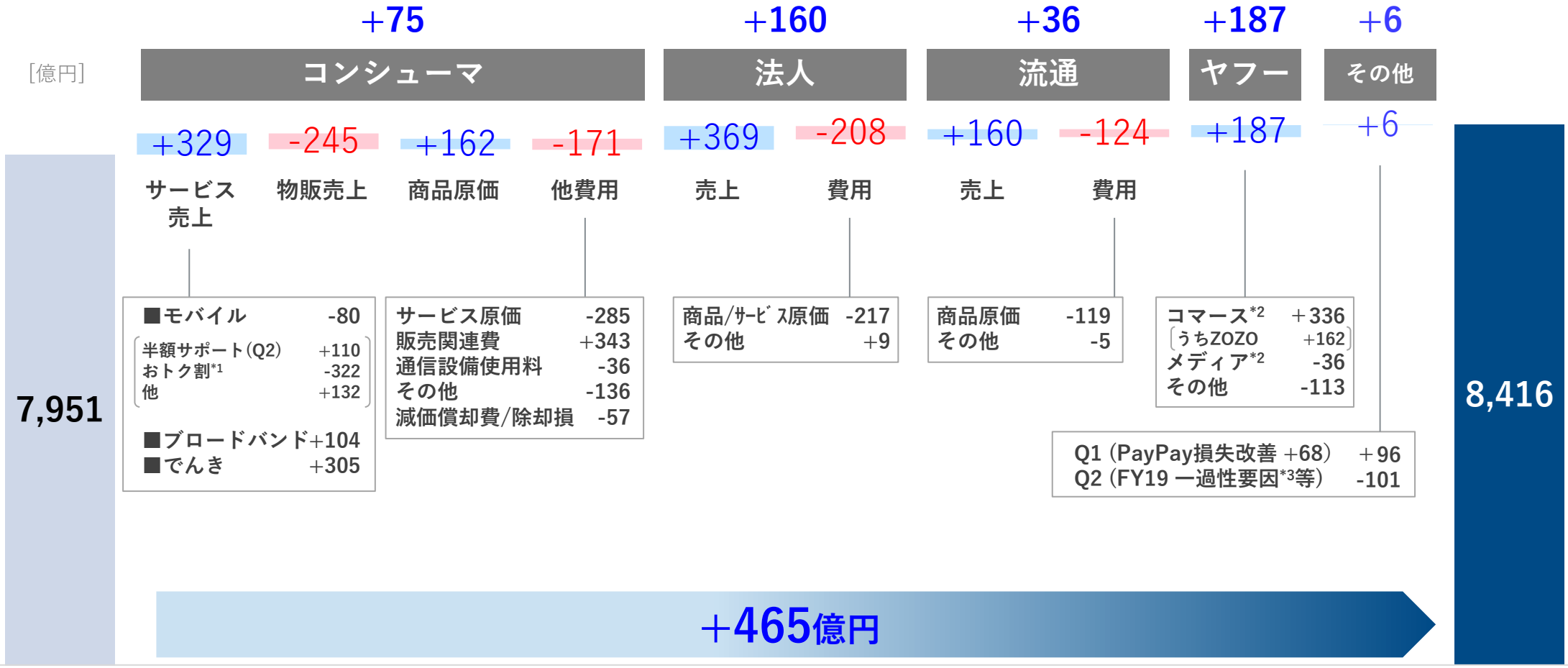


*1：調整後EBITDA ＝ 営業利益 + 減価償却費及び償却費(固定資産除却損含む)± その他の調整項目　*2：その他はセグメント間調整額を含む（FY19Q3累計 6億円、FY20Q3累計 -11億円）（以下本編内において同様）

営業利益（増減分析）

SoftBank

- コンシューマは半額サポート（110億円）およびおトク割（-322億円）の影響を除いた売上は堅調
- 法人は前期比 +160億円。ソリューション等を中心に売上が好調
- ヤフーは前期比 +187億円。コマースが大きくけん引



FY19 Q3累計

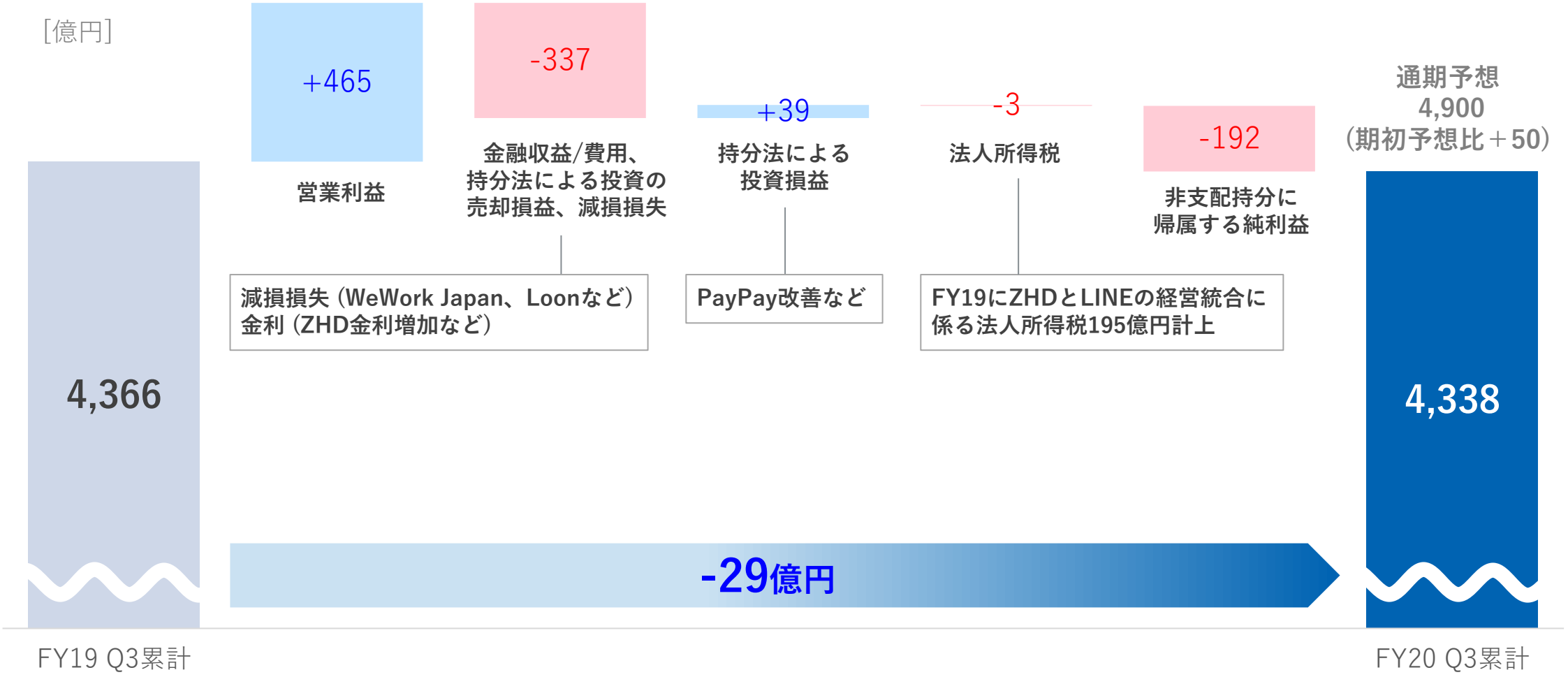
FY20 Q3累計

*1：「1年おトク割」による通信料金割引計上方法について、 2019 年 10 月の電気通信事業法改正前は 24 ヵ月の繰延計上、改正後は 12 ヵ月の発生時計上
*2：ヤフー事業のコマースおよびメディアはZHDのセグメント損益
*3：FY19Q2にサイバーリーズン・ジャパン㈱が当社の子会社から持分法適用会社となったことから、子会社の支配喪失に伴う利益 119 億円を計上したことによるもの

純利益（増減分析）

SoftBank

■ 株式評価・売却損益および減損損失の一過性要因により前期比微減、通期予想の進捗は順調につき上方修正

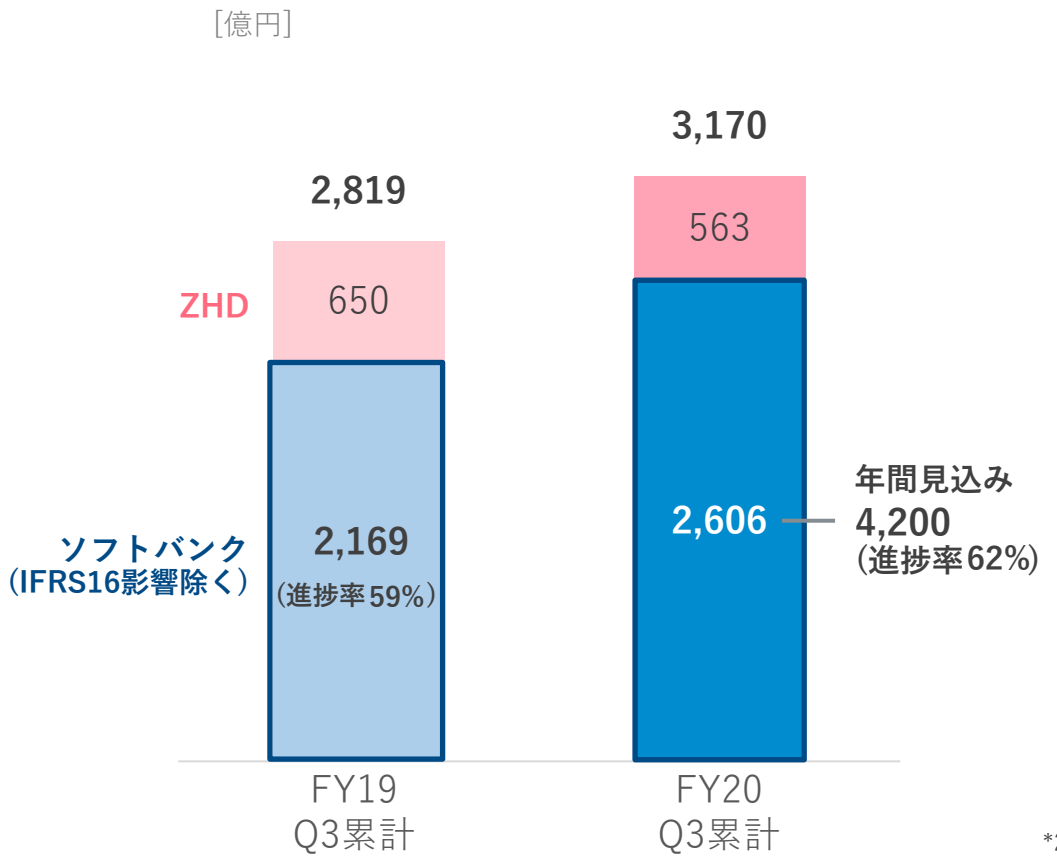


設備投資/調整後FCF

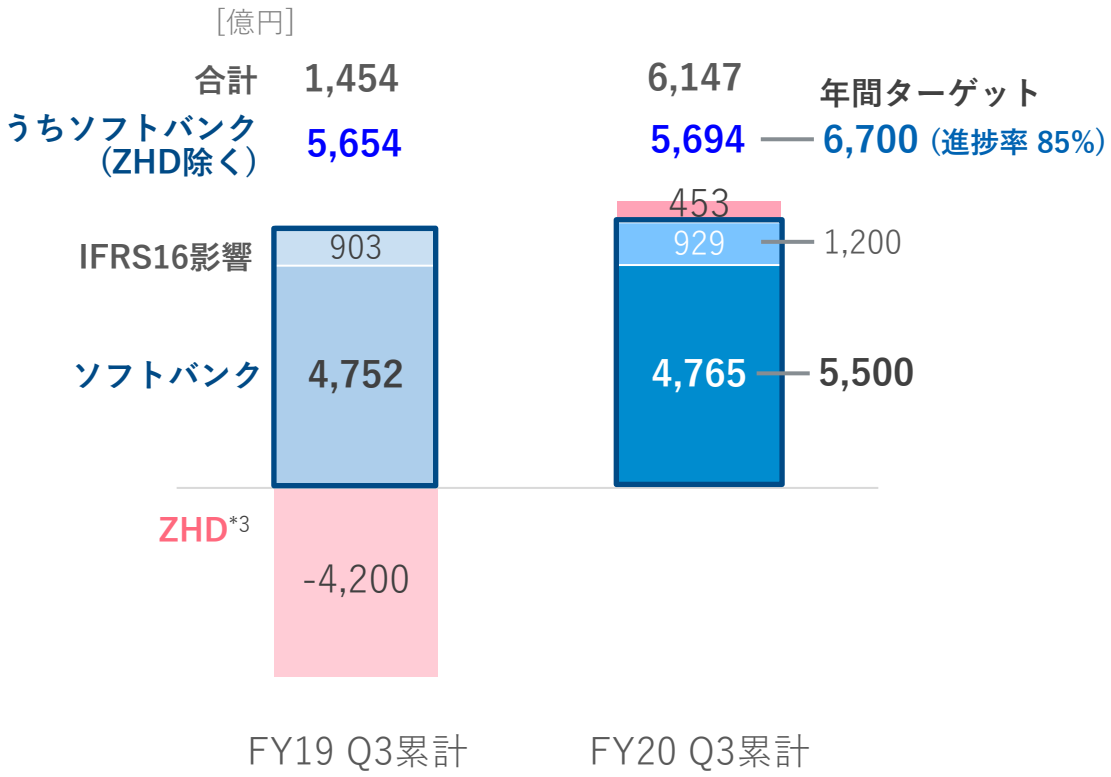
SoftBank

■ 5G投資前倒しにより、ZHDを除く設備投資の年間見込みを200億円増加し4,200億円へ
■ ZHDを除く調整後FCF(IFRS第16号影響含む)は5,694億円。年間ターゲット6,700億円に対し順調に推移

設備投資*1



調整後FCF*2, 4



*1：設備投資額は、検収ベース。法人レンタル端末、IFRS第16号適用による影響を除く

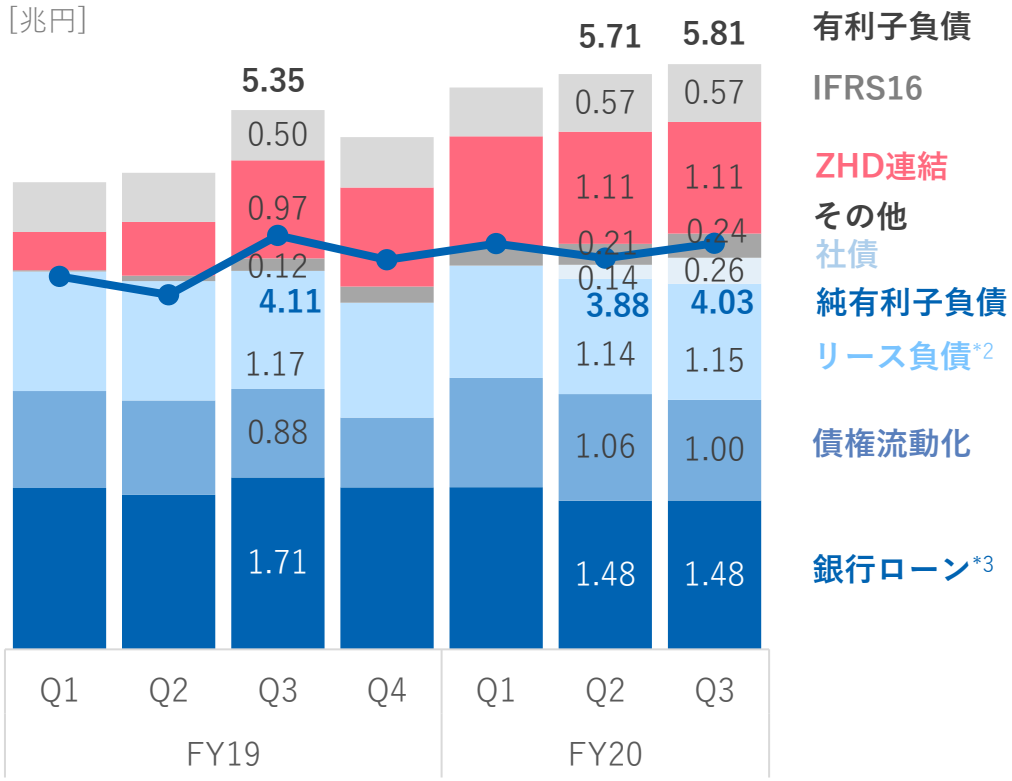
*2：調整後FCF ＝ FCF ± ソフトバンクグループ㈱との一時的な取引 ＋(割賦債権の流動化による調達額 － 同返済額)
*3：ZHDのFCFおよびZHDから当社への配当支払 (FY19Q3累計: 54億円、FY20Q3累計：188億円) の合算値
(ZHDのIFRS第16号適用による影響を含む)
*4：FY20Q3累計はLINE株式公開買付けの影響 (840億円) を除く

有利子負債/純有利子負債およびネットレバレッジ・レシオ

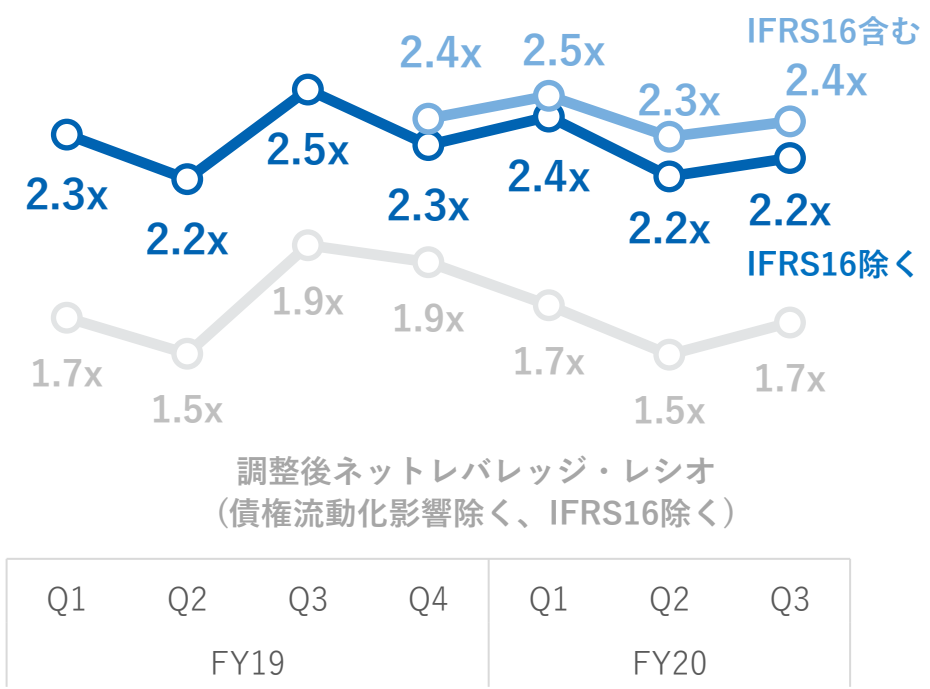
SoftBank

■ 有利子負債は社債発行等により対前四半期比で若干増加
■ ネットレバレッジ・レシオは配当、自己株式取得等によりやや上昇

有利子負債/純有利子負債*1



ネットレバレッジ・レシオ*4,5



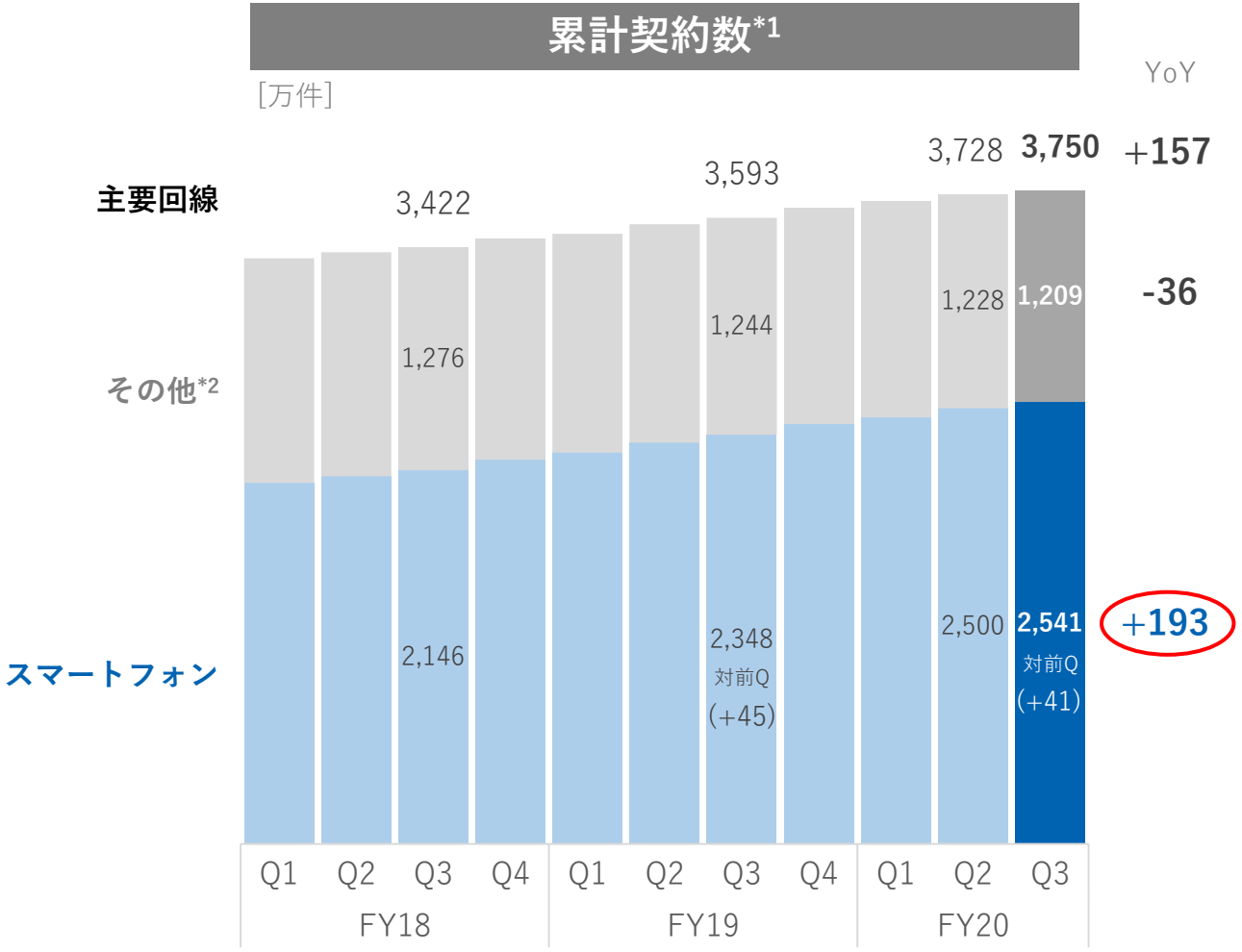
*1：純有利子負債 = 有利子負債 - 現金及び現金同等物 - 債権流動化現金準備金
FY20より純有利子負債に債権流動化現金準備金を加味、 FY19 を遡及処理
*2：ソフトバンク㈱およびWireless City Planning㈱のセール＆リースバックおよびECAファイナンス取引に係る負債および借入金（割賦未払金含む）
*3：2018年８月および2019年10月に当社が組成したシニアローン

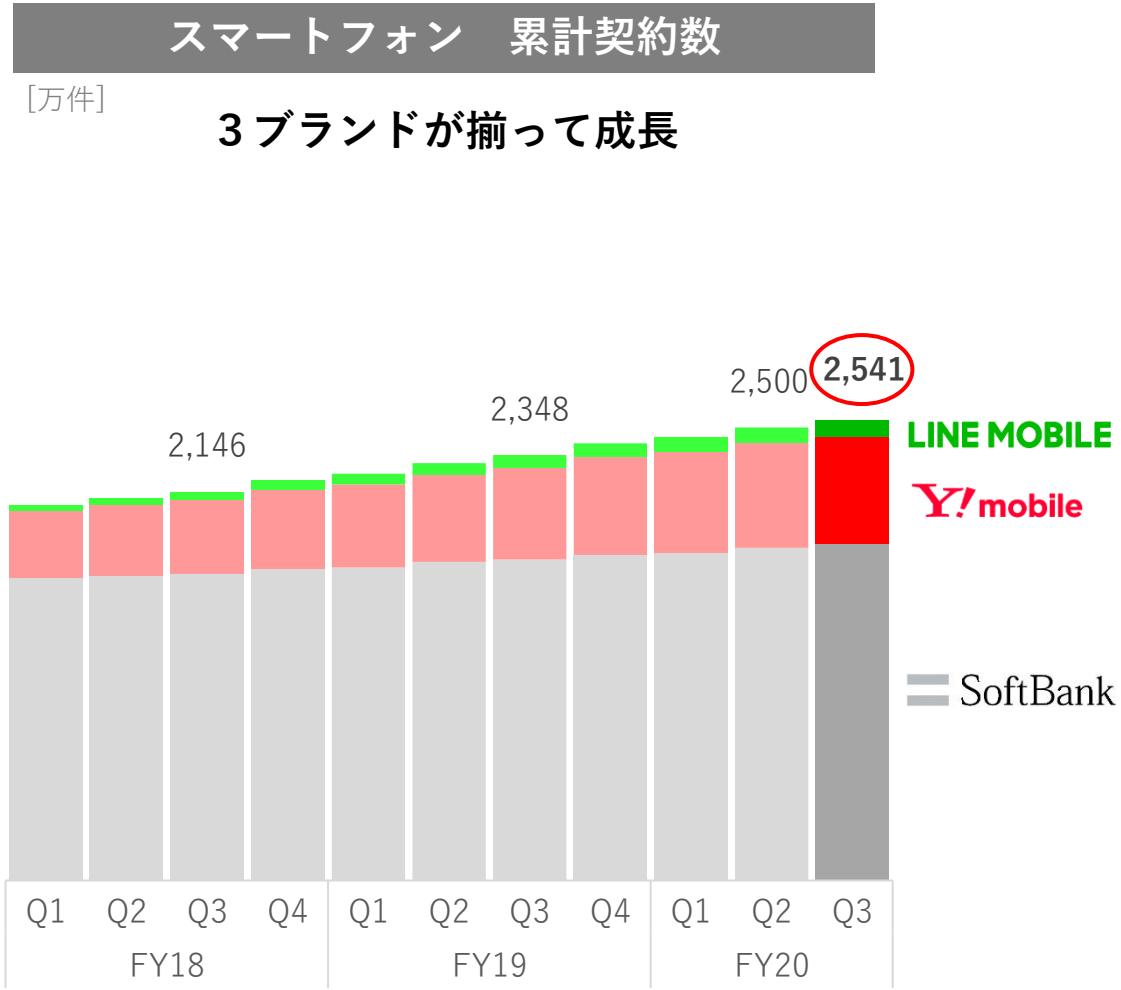
*4：ネットレバレッジ・レシオ ＝ 純有利子負債 ÷ 調整後EBITDA（該当四半期の直近12ヶ月）
*5：FY19Q3、FY19Q4、FY20Q1およびFY20Q2はZOZOの過去12ヶ月EBITDAを遡及処理

累計契約数（主要回線/スマートフォン）

SoftBank

■ スマートフォン累計契約数は 2,541万件（前期比 +193万件）。ワイモバイルがけん引、スマホ契約数の２割台まで成長
■ 主要回線累計数は 3,750万件（前期比 +157万件）



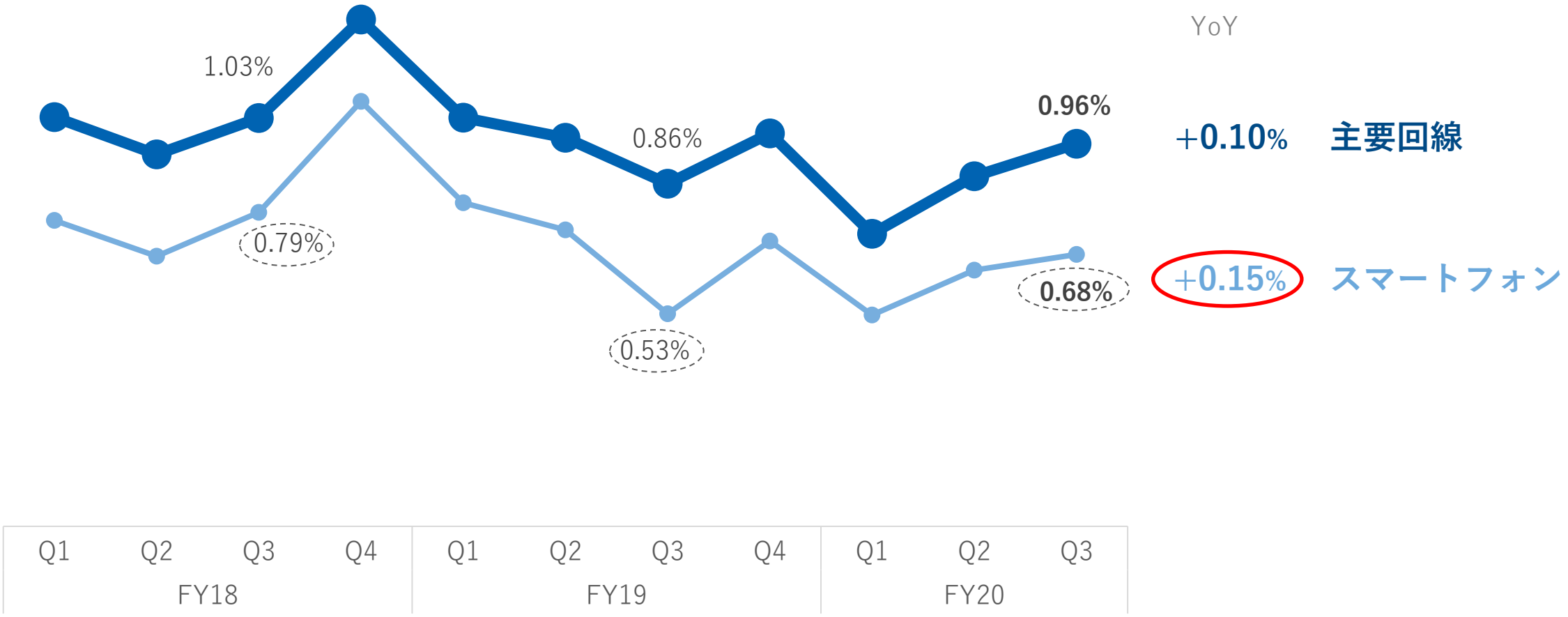


*1：累計契約数はおうちのでんわを含む（FY19Q3：53万件、FY20Q3：56万件）
*2：従来型携帯電話、タブレット、モバイルデータ通信端末、おうちのでんわなど

解約率（主要回線/スマートフォン）

SoftBank

■ 前年Q3は消費増税と電気通信事業法改正に伴う顧客流動性低下などにより大幅に改善、反動で今期の対前年は増加

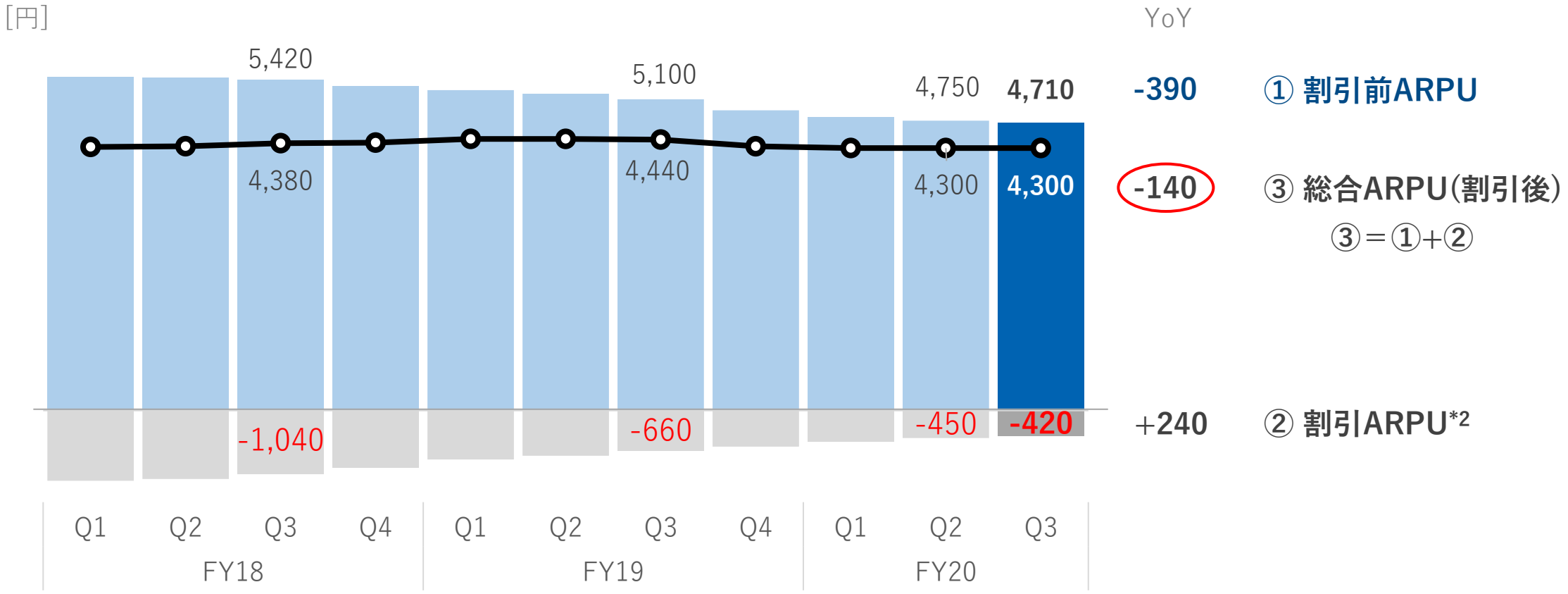


ARPU（主要回線）

SoftBank

■ 割引前ARPUは端末分離プランの浸透（「みんな家族割+」、「スマホデビュープラン」を含む）、「おトク割」*1の影響、およびY!mobile・LINE MOBILE構成比増等により低下（①）

■ 割引ARPUは端末分離プランの浸透等の影響で逓減（②）

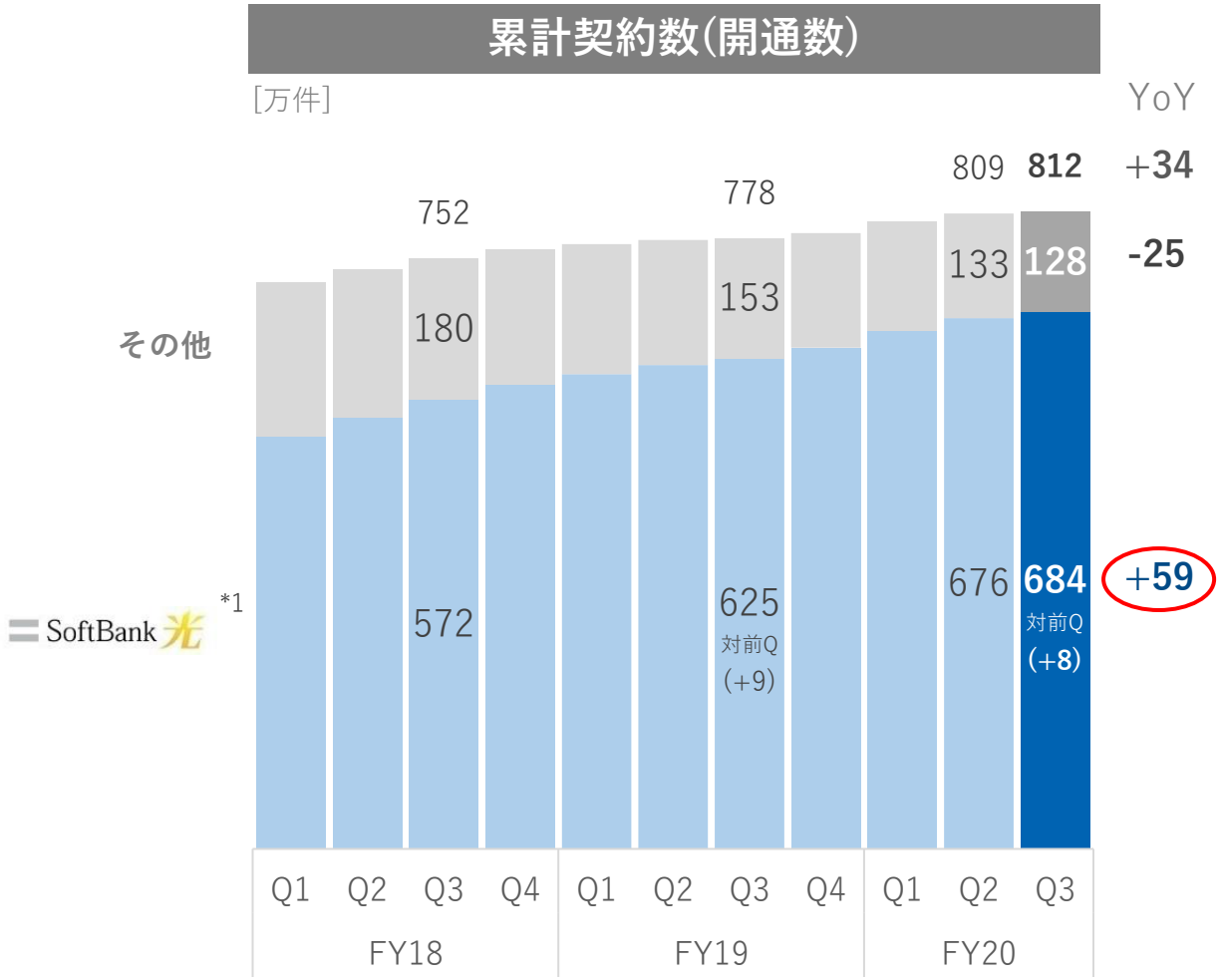


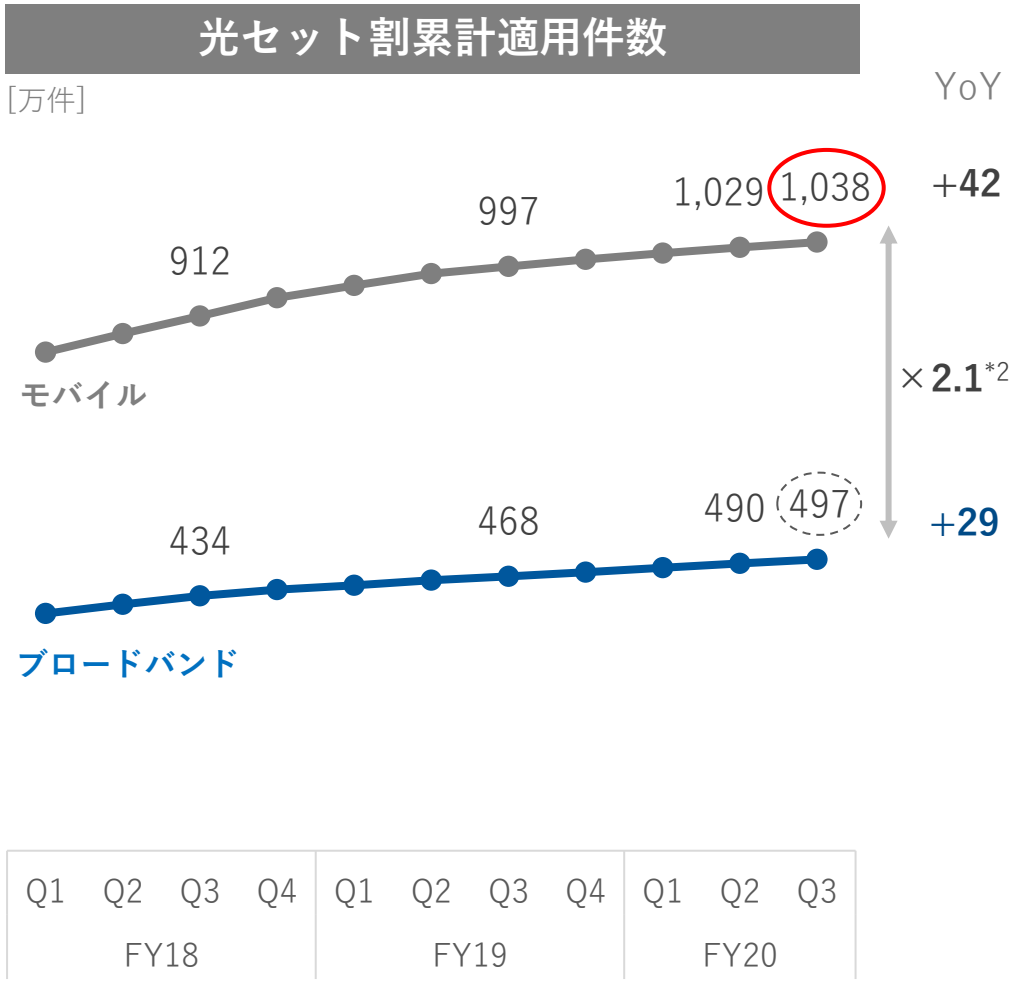
*1：「１年おトク割」による通信料金割引計上方法について、2019年10月の電気通信事業法改正前は24ヵ月の繰延計上、改正後は12ヵ月の発生時計上
*2：ポイント等や端末購入サポートプログラムに係る通信サービス売上控除額は、ARPUに不算入

BBサービス

SoftBank

■ SoftBank 光のFY20Q3末契約数(開通)は 684万件、前期比 +59万件と順調に拡大





*1：SoftBank 光にはSoftBank Airを含む

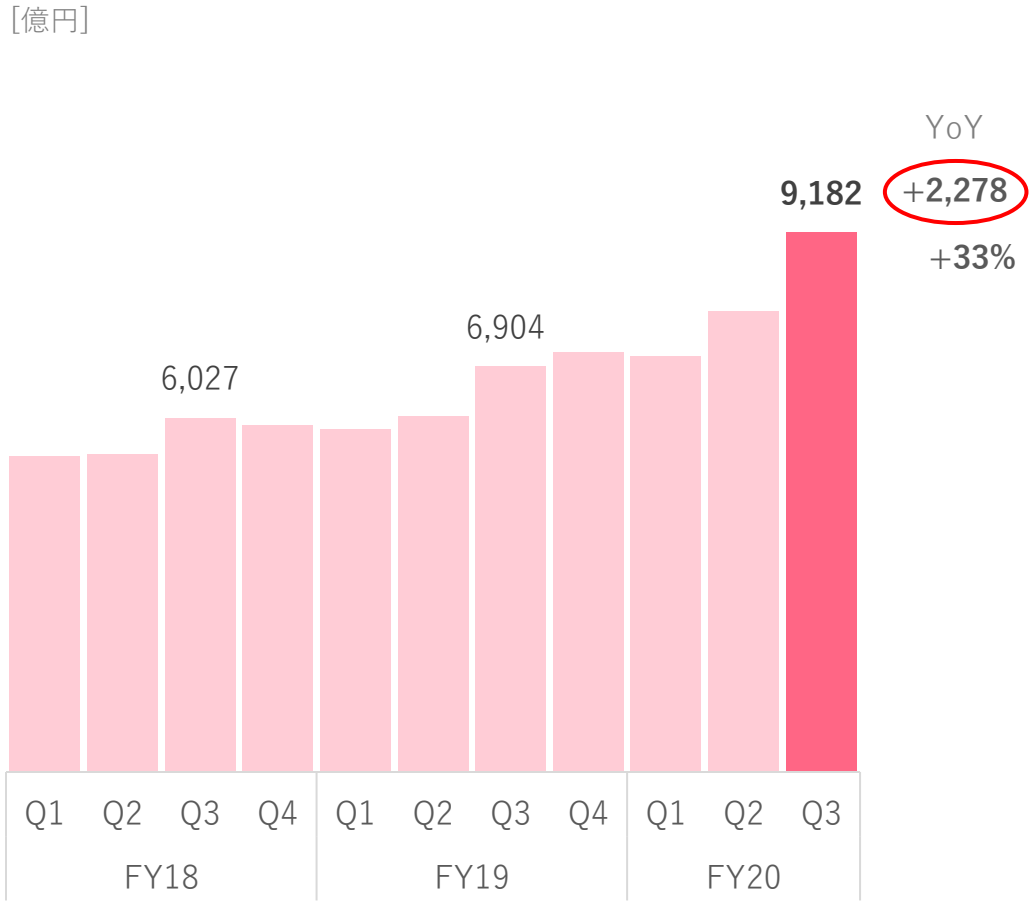
*2：SoftBank 光1件当たりのセット割適用モバイル件数

Zホールディングス、SBペイメントサービス取扱高

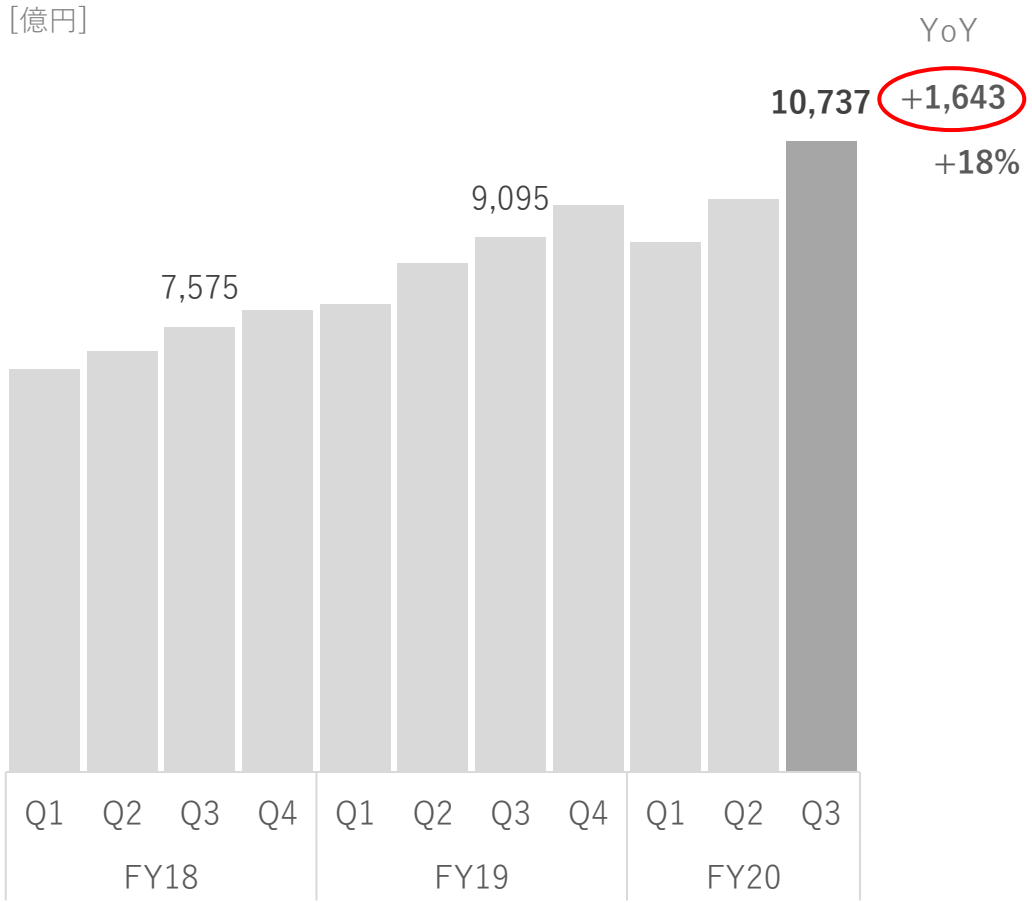
SoftBank

- eコマース取扱高は巣ごもり需要および「超PayPay祭り」などの販促活動強化により前期比+33%
- SBペイメントサービス取扱高は旅行・エンタメ関連の需要が回復し、Q2に続き好調。初の1兆円超え

ZHD eコマース取扱高



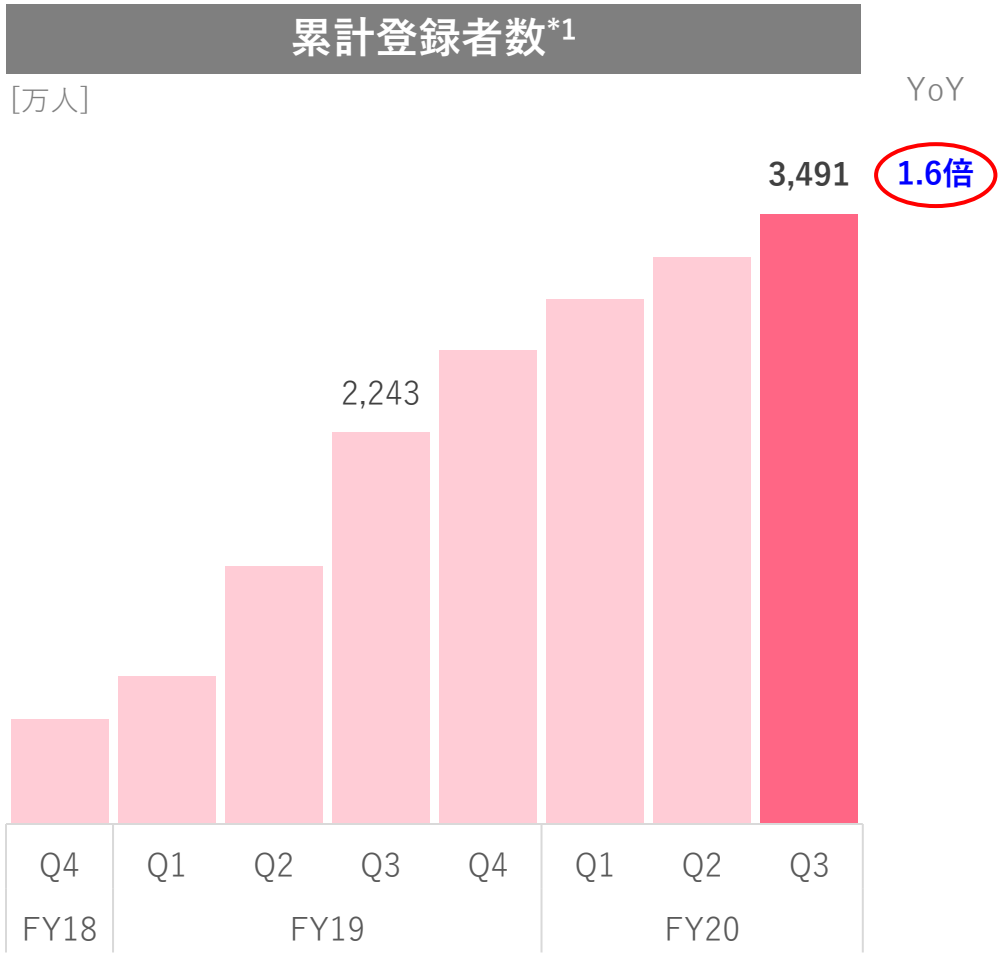
SBペイメントサービス取扱高

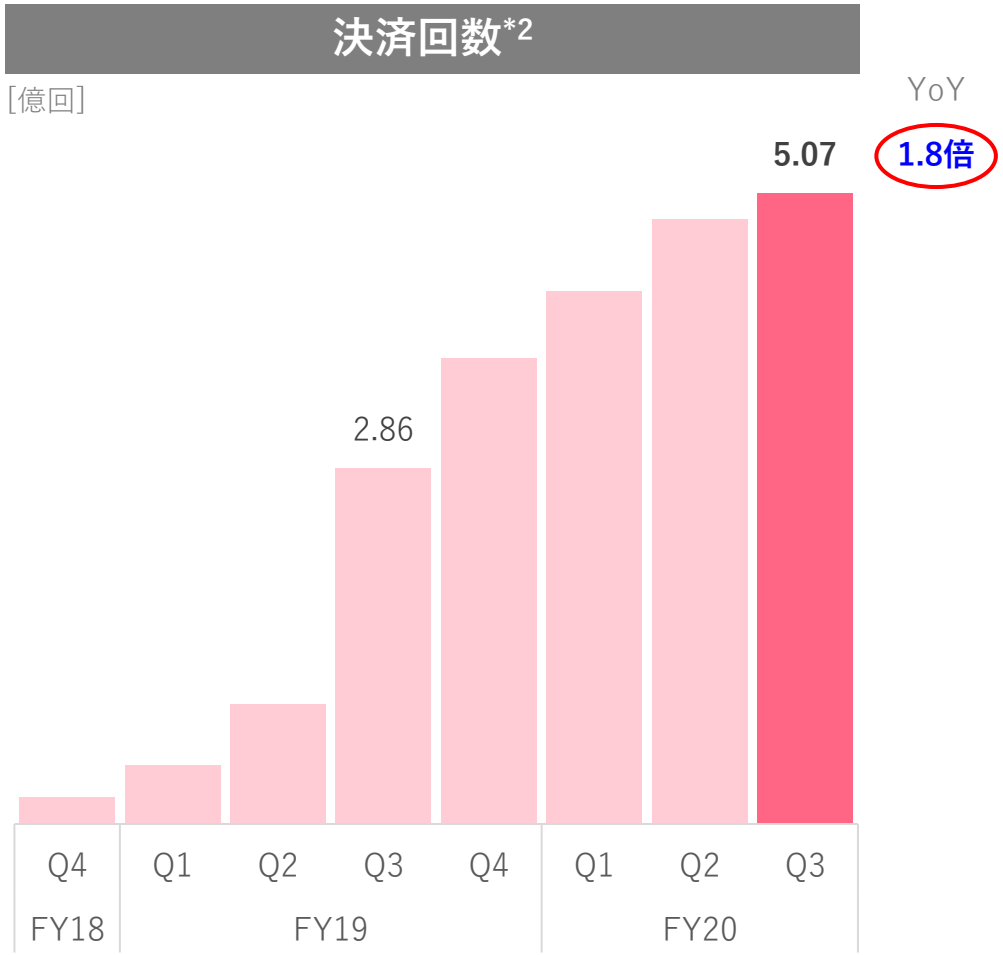


PayPay累計登録者数、決済回数

SoftBank

- 累計登録者数は3,500万人(1月4日時点)、決済回数は5億回を突破
- 様々な販売促進施策、店舗の拡大、グループのシナジーが奏功し力強い成長を継続





*1：四半期末時点

*2：各四半期合計

通期業績予想

通期業績予想

SoftBank

- 通期予想の上方修正を実施
- 一株当たり配当金予想は86円を据え置き

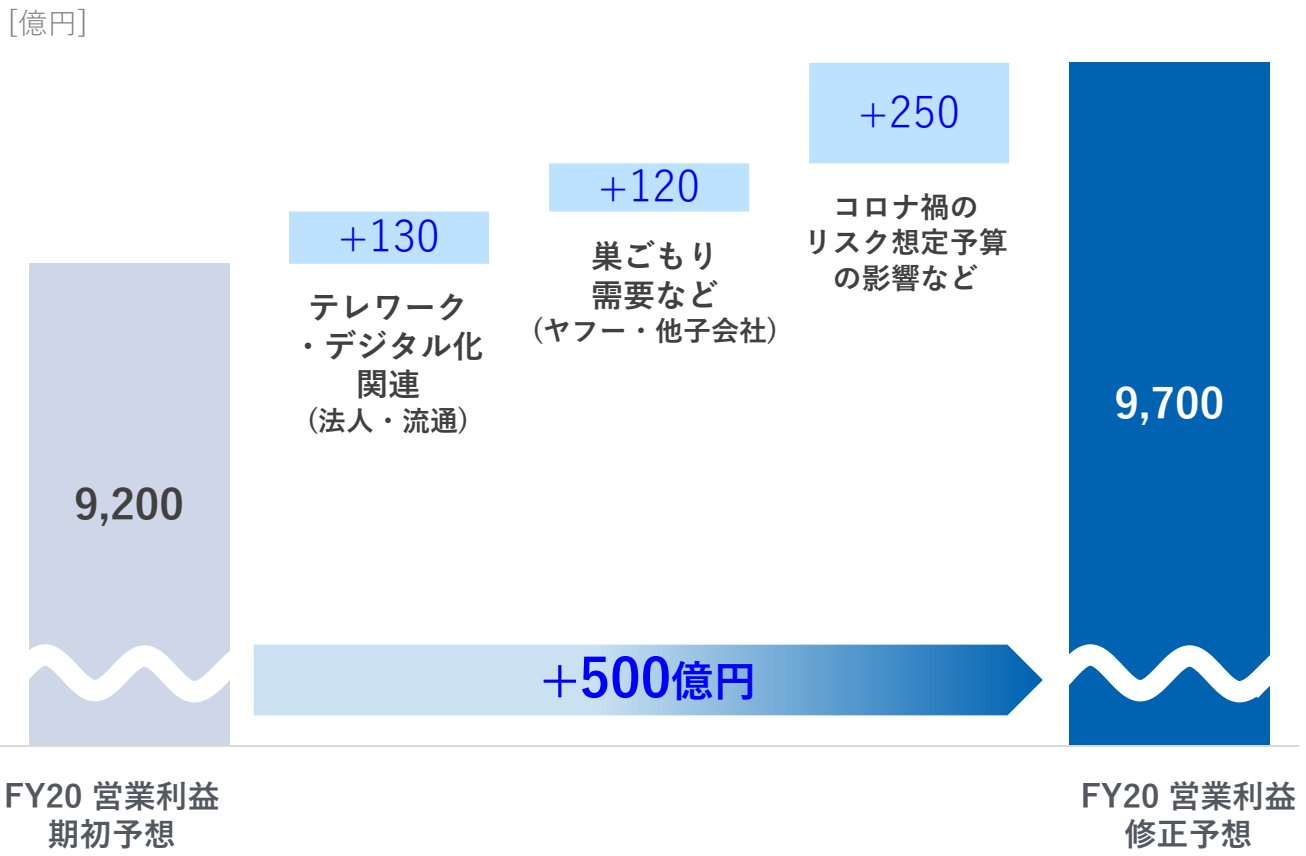
	FY20 通期予想		増減額	増減率
	期初予想	修正後		
売上高	49,000 億円	**51,000 億円**	+2,000 億円	+4.1%
営業利益	9,200 億円	**9,700 億円**	+500 億円	+5.4%
純利益	4,850 億円	**4,900 億円**	+50 億円	+1.0%

通期業績予想 増減要因（期初予想対比）

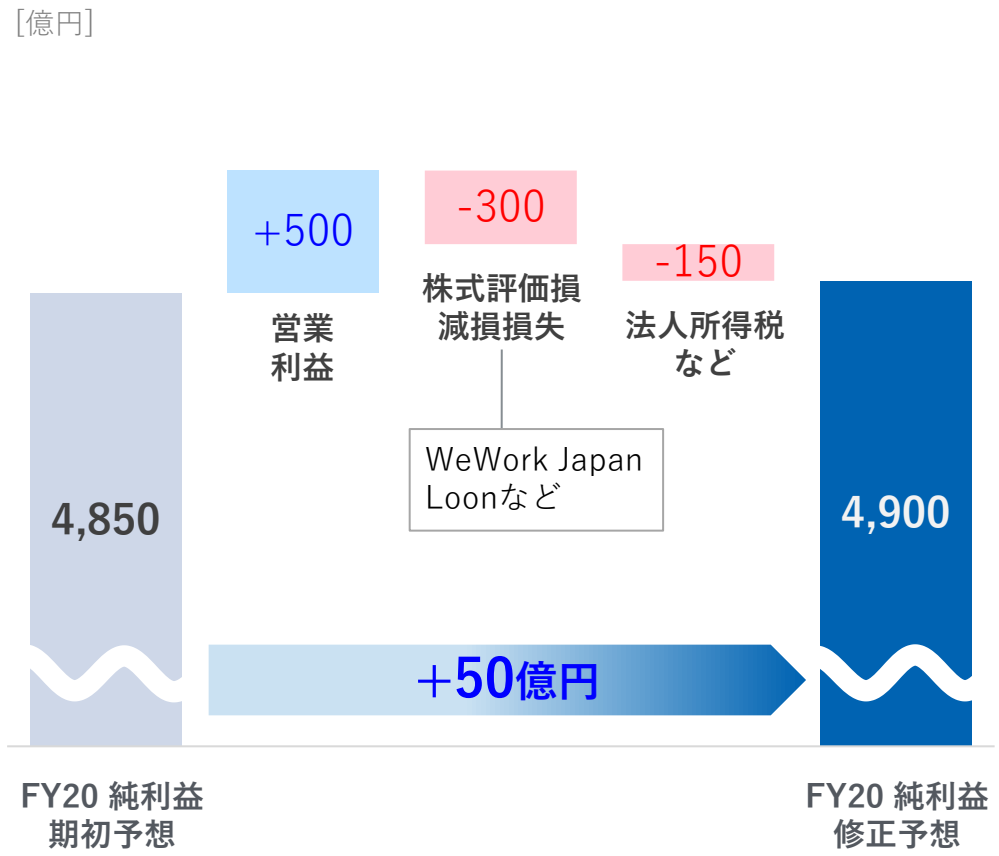
SoftBank

■ 営業利益：コロナによるリスクを想定していたが、巣ごもり需要・デジタル化需要が上回り、期初予想比増益
■ 純利益　：評価損・減損などが発生し、営業利益の増加を相殺

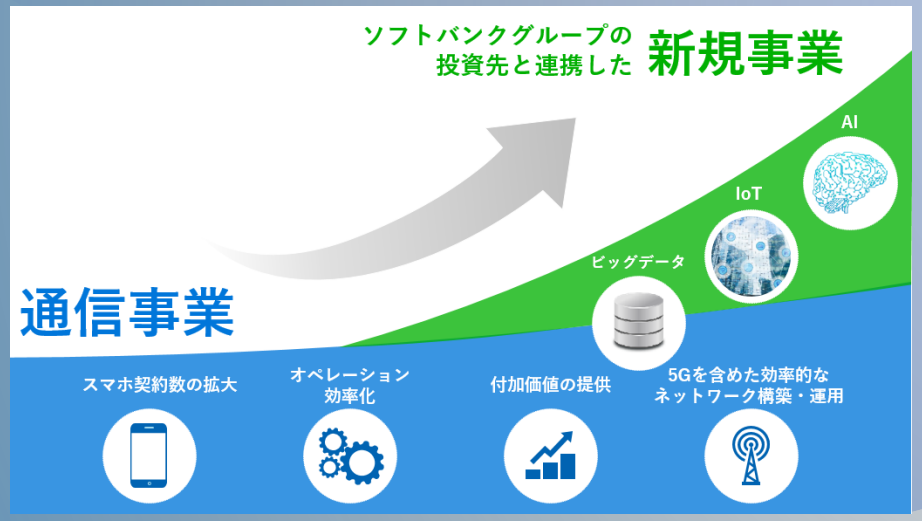
営業利益（期初予想対比）



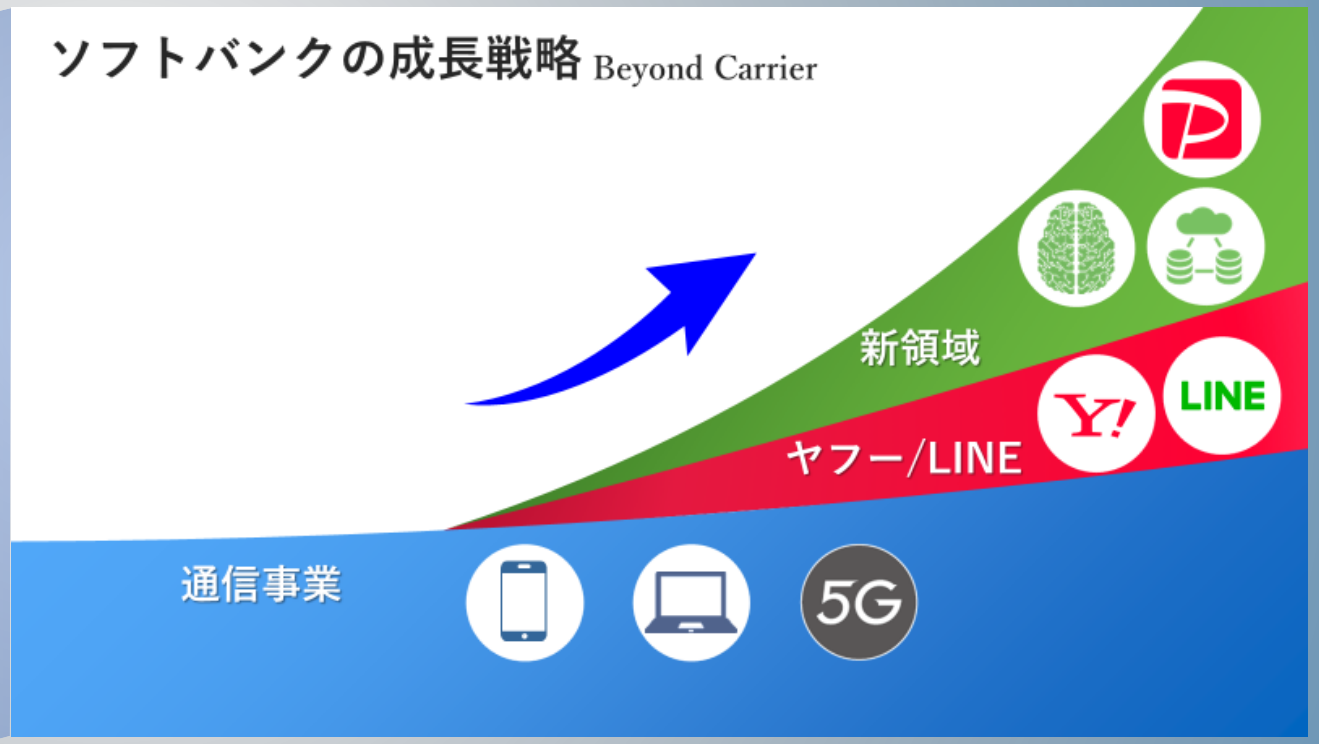
純利益（期初予想対比）



Beyond Carrier戦略の深耕が成長の鍵



株式上場時
2018年12月



現在

*ZHDとLINEの経営統合の完了は2021年3月を予定

Appendix

連結PL

SoftBank

[億円]	FY19 Q3累計	FY20 Q3累計	増減	主な増減要因
売上高	36,180	38,070	+1,891	
売上原価	-18,573	-19,279	-706	
売上総利益	17,607	18,791	+1,185	
販売費及び一般管理費	-9,775	-10,375	-600	
その他の営業収益	120	-	-120	サイバーリーズン・ジャパン㈱が子会社から持分法適用会社となったことに伴う子会社支配喪失益等
営業利益	7,951	8,416	+465	
持分法による投資損益　(- はマイナス)	-299	-261	+39	
金融収益	50	43	-7	
金融費用	-442	-613	-171	株式評価減
持分法による投資の売却損益	37	16	-20	
持分法による投資の減損損失	-	-139	-139	WeWork Japan合同会社株式の減損損失
税引前利益	7,296	7,462	+166	
法人所得税	-2,604	-2,607	-3	
純利益	4,692	4,855	+163	
純利益の帰属				
親会社の所有者	4,366	4,338	-28	
非支配持分	325	517	+192	

連結B/S（資産）

SoftBank

[億円]	20年3月末	20年12月末	増減	主な増減要因
資産合計	97,923	108,217	+10,295	
流動資産合計	33,643	41,058	+7,415	
現金及び現金同等物	11,438	16,914	+5,476	債権流動化や社債発行による調達金額増加、銀行業における資産運用残高の増加
営業債権及びその他の債権	18,003	20,788	+2,785	
その他の金融資産	949	954	+5	
棚卸資産	969	1,491	+522	
その他の流動資産	2,284	910	-1,374	ZHDにおける法人税等還付
非流動資産合計	64,280	67,160	+2,880	
有形固定資産	9,861	11,423	+1,563	通信設備等による増加
使用権資産	12,345	11,032	-1,312	償却、リースアップ等による減少等
のれん	6,186	6,241	+55	
無形資産	17,095	16,858	-237	
契約コスト	2,126	2,353	+227	
持分法で会計処理されている投資	801	762	-40	
投資有価証券	1,752	3,246	+1,494	ソフトバンクによるLINE株式取得 +840億円
銀行事業の有価証券	3,430	3,862	+432	
その他の金融資産	9,056	9,887	+831	ジャパンネット銀行における中央清算機関差入証拠金および住宅ローン残高の増加
繰延税金資産	559	439	-120	
その他の非流動資産	1,069	1,056	-13	

連結B/S（負債）

SoftBank

[億円]	20年3月末	20年12月末	増減	主な増減要因
負債合計	80,847	90,541	+9,694	
流動負債合計	44,966	49,054	+4,088	
有利子負債	18,113	20,300	+2,188	債権流動化による増加
営業債務及びその他の債務	12,538	13,549	+1,011	買掛金および未払金の増加
銀行事業の預金	8,808	11,484	+2,675	ジャパンネット銀行における普通預金の増加
契約負債	1,277	910	-367	
その他の金融負債	38	33	-4	
未払法人所得税	1,534	1,122	-412	
引当金	68	159	+91	
その他の流動負債	2,591	1,497	-1,094	ヤフーからZHDへの配当に係る預り源泉税納付
非流動負債合計	35,881	41,487	+5,606	
有利子負債	32,710	37,769	+5,059	社債発行　ソフトバンク 2,200億円、ZHD 2,000億円
その他の金融負債	368	359	-9	
確定給付負債	163	166	+2	
引当金	839	971	+132	
繰延税金負債	1,682	2,107	+424	
その他の非流動負債	119	116	-3	

連結B/S (資本)

SoftBank

[億円]	20年3月末	20年12月末	増減	主な増減要因
資本合計	17,076	17,676	+601	
親会社の所有者に帰属する持分	10,005	10,151	+146	
資本金	2,043	2,043	-	
資本剰余金	-1,339	-1,327	+12	
利益剰余金	10,036	10,192	+157	ソフトバンクの配当支払い-4,061億円、FY20 Q3純利益 +4,338億円
自己株式	-687	-1,073	-386	ソフトバンクにおける自己株式取得
その他の包括利益累計額	-47	316	+363	FVTOCIの資本性金融資産の公正価値の変動
非支配持分	7,070	7,525	+455	

自己資本比率*1	10.2%	9.4%	-0.8%	
資本の総資産に対する割合	17.4%	16.3%	-1.1%	

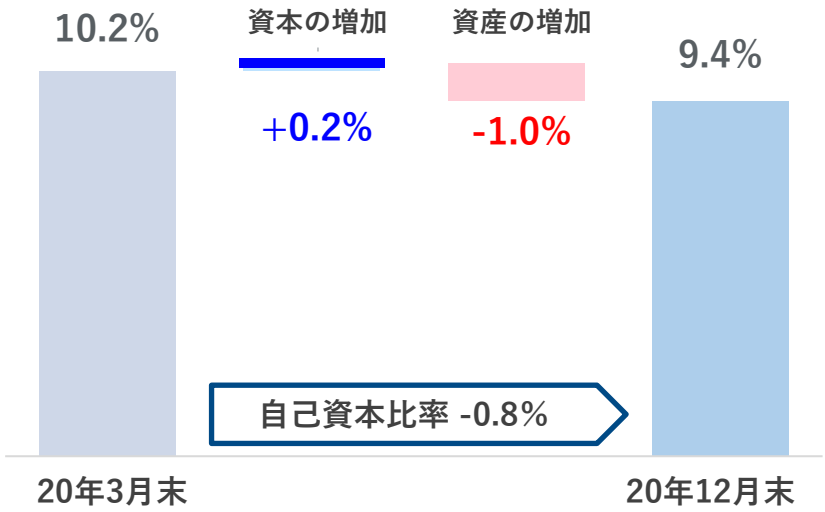
*1：自己資本比率 親会社の所有者に帰属する持分 ÷ 総資産

資産および資本の状況

SoftBank

- 自己資本比率は20年3月末比 -0.8%の9.4% (資本の総資産に対する割合 16.3%)
- ZHD子会社化に伴う会計処理影響 (のれん相当 3,214億円)を除く自己資本比率は 12.4%

[億円]	20年3月末	20年12月末	増減
現金及び現金同等物	11,438	16,914	5,476
その他	86,485	91,303	4,819
資産合計	**97,923**	**108,217**	**10,295**
有利子負債	50,823	58,069	7,247
その他	30,024	32,472	2,447
負債合計	**80,847**	**90,541**	**9,694**
親会社の所有者に帰属する持分	10,005	10,151	146
その他	7,070	7,525	455
資本合計	**17,076**	**17,676**	**601**
自己資本比率[*1]	**10.2%**	**9.4%**	**-0.8%**
資本の総資産に対する割合	**17.4%**	**16.3%**	**-1.1%**



(参考)

ZHD取得価格	**6,775億円**
ZHD時価 (当社持分) (2021年2月3日時点)	**15,232億円**
連結簿価 *(2020年12月末時点)	**4,025億円**

*ZHD子会社化の際、のれん相当3,214億円を剰余金減算処理した影響あり

*1：自己資本比率=親会社の所有者に帰属する持分÷総資産

連結CF計算書

SoftBank

[億円]	FY19Q3累計	FY20Q3累計	主な増減要因
営業活動によるCF	7,931	10,390	
純利益	4,692	4,855	
減価償却費	4,971	5,188	
ワーキング・キャピタル増減	-2,223	-1,961	
利息支払額	-464	-453	
法人所得税の支払額・還付額	-2,470	-2,673	
その他	3,425	5,434	銀行事業の預金が増加
投資活動によるCF	-7,295	-5,389	
有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出・収入	-3,235	-3,638	
投資の取得による支出・投資の売却または償還による収入	-97	-1,129	ソフトバンクによるLINE株式取得 -840億円
子会社の支配獲得による収支	-3,778	-94	ZOZO株式取得 (FY19Q3)
その他	-185	-528	
財務活動によるCF	1,778	479	
有利子負債の収入	20,629	16,381	主に、ZHDにてZOZO株式取得のための銀行借入 4,000億円を行った影響 (FY19Q3)
有利子負債の支出	-11,240	-15,555	主に、ZHDにてZOZO株式取得のための銀行借入4,000億円の返済を行った影響 (FY20)
短期有利子負債の純増減	2,958	4,514	主に、債権流動化による増加
配当金の支払額	-3,961	-3,917	
非支配持分への配当金の支払額	-248	-298	
自己株式取得による支出	-687	-669	
被結合企業の自己株式取得による支出	-5,268	-	ZHDによる自己株式取得 (FY19)
その他	-405	23	
現金及び現金同等物に係る換算差額	-2	-3	
現金及び現金同等物の期首残高	9,384	11,438	
現金及び現金同等物の期末残高	11,796	16,914	

調整後FCF	1,454	5,307	

主な関係会社　子会社 (1/2)

SoftBank

■ 2020年12月末時点の関係会社 255社（うち子会社 197社、関連会社*1 58社）

報告セグメント	会社名	議決権所有割合	主な事業内容
コンシューマ	Wireless City Planning㈱	32.2%	電気通信事業　（経済的持分比率：99.5%）
	LINEモバイル㈱	60.0%	電気通信事業
	㈱ウィルコム沖縄	100.0%	電気通信事業
	SBパワー㈱	100.0%	電力の売買業務および売買の仲介業務
	SBモバイルサービス㈱	100.0%	コールセンター事業
法人	㈱IDCフロンティア	100.0%	データセンター事業
	SBエンジニアリング㈱	100.0%	電気通信に関わる構築、運用など
流通	SB C&S㈱	100.0%	IT関連製品の流通・販売、IT関連サービスの提供
ヤフー	Zホールディングス㈱	44.6%	持株会社
	ヤフー㈱	100.0%	EC事業、インターネット上の広告事業
	㈱ZOZO	50.1%	ファッション EC サイトの運営、プライベートブランドの販売、ファッションメディアの運営等
	㈱一休	100.0%	高級ホテルや旅館、厳選レストラン等のインターネット予約サイト運営事業
	ワイジェイカード㈱	100.0%	クレジット、カードローン、信用保証業務
	アスクル㈱	45.0%	オフィス関連商品の販売事業、その他の配送事業
	ワイジェイFX㈱	100.0%	FX(外国為替証拠金)事業
	㈱ジャパンネット銀行	46.6%	銀行業
	㈱イーブックイニシアティブジャパン	43.4%	コンテンツの電子化および配信サービス、電子コンテンツの企画開発および制作、書籍や雑誌の編集および出版
	バリューコマース㈱	52.0%	広告事業、CRM事業

*1：関連会社には共同支配企業を含む

青：上場企業

主な関係会社　子会社 (2/2)・関連会社

SoftBank

報告セグメント	会社名	議決権所有割合	主な事業内容
その他 (子会社)	**HAPSモバイル㈱**	92.9%	HAPS 事業 に関するネットワーク機器の研究開発・製造
	SBペイメントサービス㈱	100.0%	決済サービス
	SBクラウド㈱	60.0%	パブリッククラウドサービスの販売
	㈱One Tap BUY*1	51.0%	スマートフォン専業の証券業
	SBメディアホールディングス㈱	100.0%	アイティメディア等の株式を保有する持株会社
	アイティメディア㈱	52.5%	IT総合情報サイト「ITmedia」の運営
	SBプレイヤーズ㈱	100.0%	行政向けソリューションサービス
	SBテクノロジー㈱	53.1%	クラウドサービス、セキュリティー運用監視サービス、IoT ソリューションの提供
	㈱ベクター	42.4%	パソコン用ソフトウエアのダウンロードライセンス販売、広告販売

区分	会社名	議決権所有割合	主な事業内容
関連会社	**PayPay㈱**	50.0%	モバイルペイメント等電子決済サービスの開発・提供
	WeWork Japan合同会社	25.0%	コワーキングスペース提供事業
	OYO Japan合同会社	24.9%	宿泊施設の提供およびホテルへのサービス提供
	㈱Tポイント・ジャパン	34.0%	ポイント管理事業
	㈱J.Score	50.0%	AIスコアを活用したFinTechサービス
	㈱ジーニー	31.3%	マーケティングテクノロジー事業
	サイジニア㈱	32.1%	EC事業者および小売業者向けのパーソナライズ・エンジン「デクワス」を利用した インターネットマーケティング支援サービス

*1：㈱One Tap BUYは、2021年２月１日より商号をPayPay証券㈱に変更

青：上場企業

モバイル通信料

SoftBank

■ 純粋な通信料ビジネスの見える化を実施

売上高

［セグメント別］		［見える化］
法人・ヤフー・流通ほか		同左
コンシューマ	物販等	物販等
コンシューマ	ブロードバンド	ブロードバンド
コンシューマ	でんき	でんき
コンシューマ	モバイル	モバイル付加サービス
コンシューマ	モバイル	モバイル通信料

あんしん保証
セキュリティ
決済手数料
月額コンテンツなど

営業利益

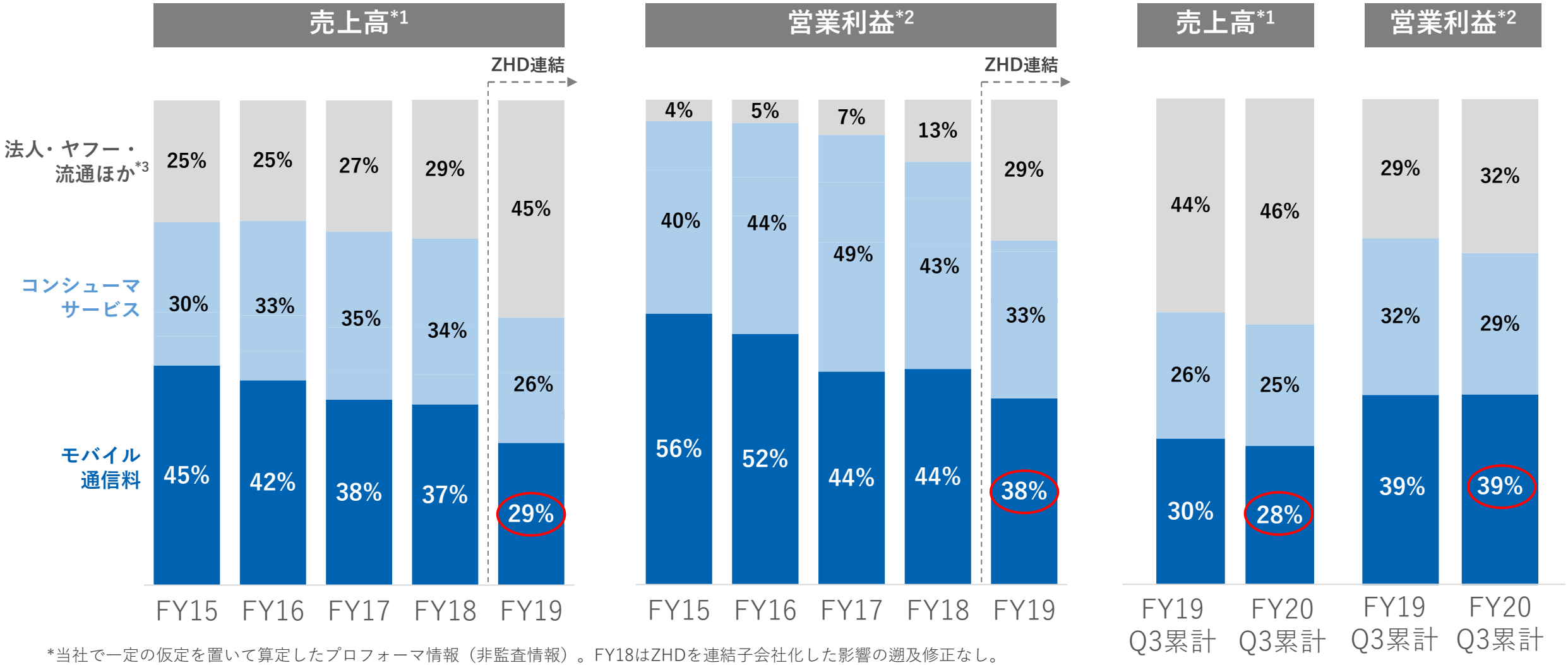
［セグメント別］	［見える化］
法人・ヤフー・流通ほか	同左
コンシューマ	コンシューマサービス（物販等／ブロードバンド／でんき／モバイル付加サービス）
コンシューマ	モバイル通信料

*法人向けモバイル通信料は「法人・ヤフー・流通ほか」に含む

売上高/営業利益　構成比（非監査情報）

SoftBank

■ モバイル通信料の比率は継続的に減少、モバイル通信以外の領域(非通信)が順調に成長



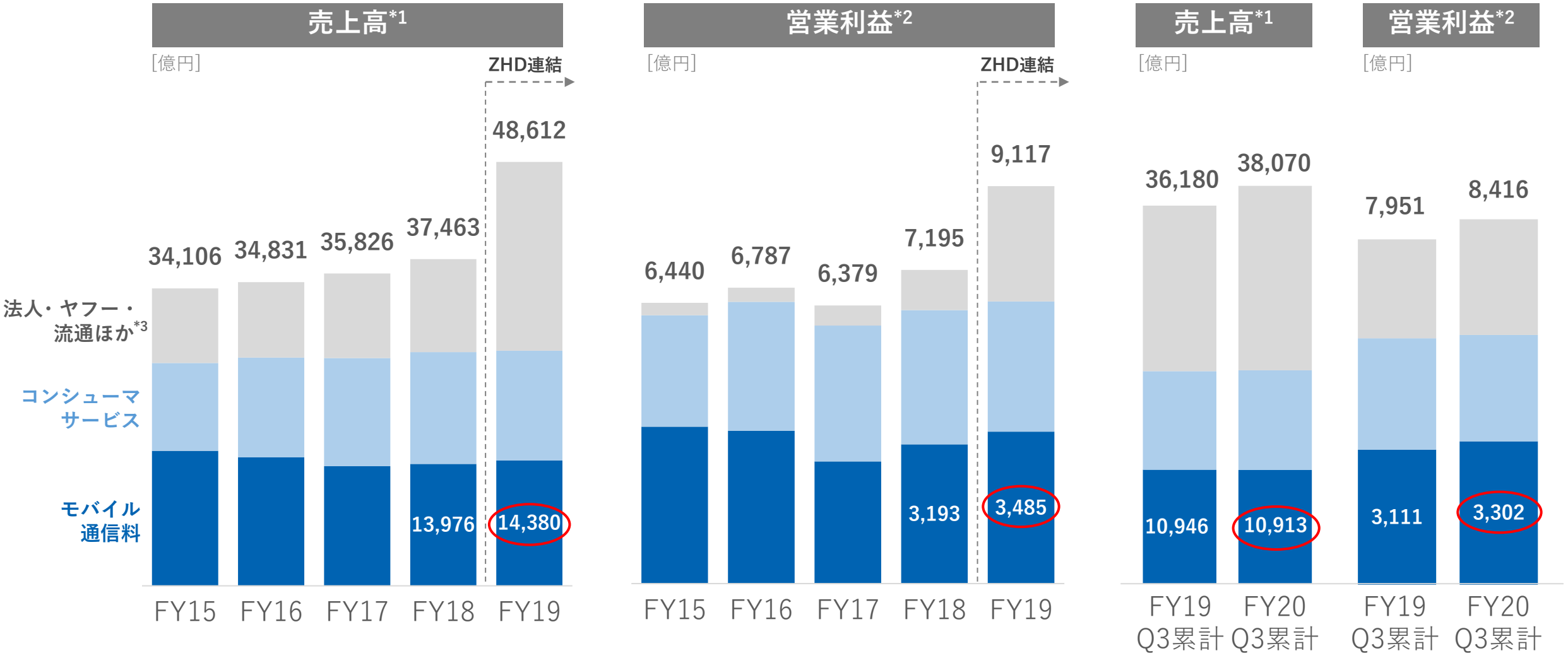
*当社で一定の仮定を置いて算定したプロフォーマ情報（非監査情報）。FY18はZHDを連結子会社化した影響の遡及修正なし。
比率は小数点以下を四捨五入しており、合計は必ずしも100とはならない

*1：売上高は外部顧客への売上を使用　*2：営業利益は「法人・ヤフー・流通ほか」に調整額を含む　*3：法人向けモバイル通信料は「法人・ヤフー・流通ほか」に含む

売上高/営業利益（非監査情報）

SoftBank

■ モバイル通信料の売上高・営業利益は共に安定推移



*当社で一定の仮定を置いて算定したプロフォーマ情報（非監査情報）。FY18はZHDを連結子会社化した影響の遡及修正なし

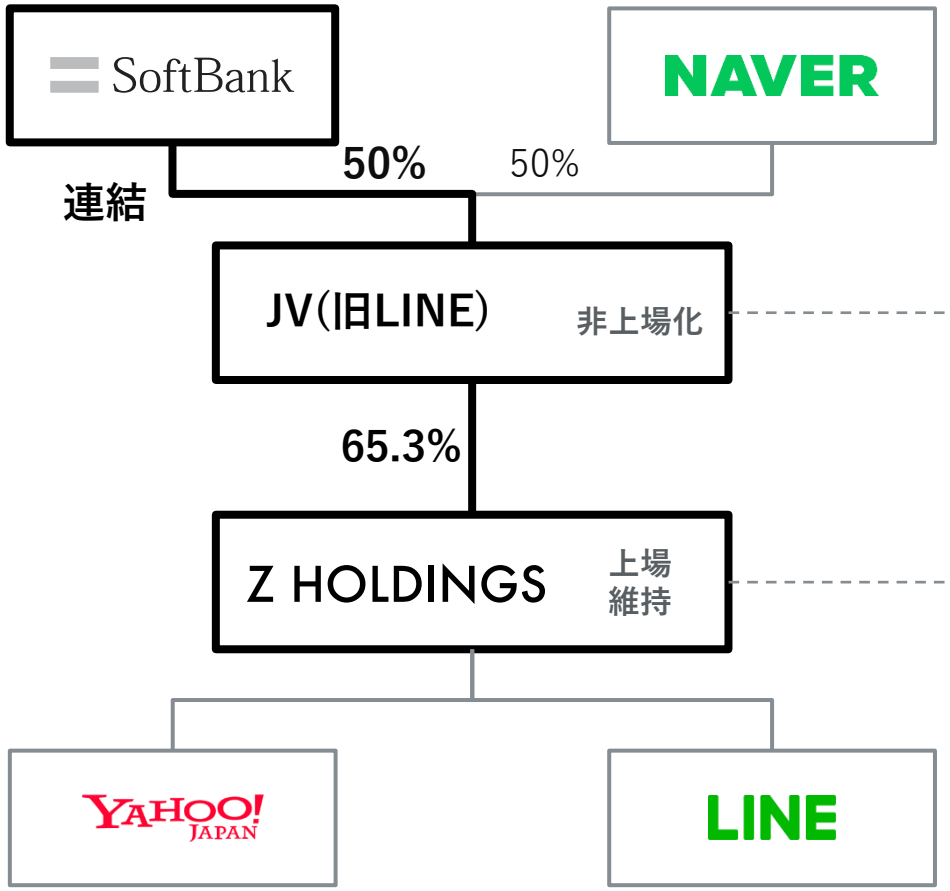
*1：売上高はセグメント間の内部売上高を含む　*2：営業利益は「法人・ヤフー・流通ほか」に調整額を含む　*3：法人向けモバイル通信料は「法人・ヤフー・流通ほか」に含む

ZHDとLINEの経営統合について

SoftBank

■ 経営統合後は、当社とNAVERのJV(当社連結)がZHDの議決権 65.3%を保有

経営統合後のストラクチャ



- **当社がJV取締役会の過半の指名権を保有(5名中3名)、当社連結**
- 代表取締役社長　宮内 謙、代表取締役会長　李 海珍

- ZHDを統合持株会社とし、LINE事業を統合
- **JVがZHD取締役会の過半の指名権を保有(10名中6名)**
- 代表取締役社長Co-CEO　川邊 健太郎、代表取締役Co-CEO　出澤 剛

*図は一部省略または簡略化
*手順は、本経営統合の目的等に沿った範囲内で、全関係当事者の合意の上で変更される可能性あり

ZHDとLINEの経営統合までのスケジュール

SoftBank

2019年 11月18日	2019年 12月23日	2020年 8月4日	2020年 9月15日	2021年 1月21日	2021年 3月予定
基本合意書締結	最終契約締結	公正取引委員会のクリアランス取得	当社とNAVERによるLINE株式公開買付け終了	LINEによるZHD株式公開買付け開始	経営統合完了

ソフトバンクのマテリアリティ（重要課題）

SoftBank

■ 持続可能な開発目標(SDGs)達成にむけ、マテリアリティを特定

事業を通じた社会課題解決

DXによる社会・産業の構築

8 働きがいも経済成長も
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
11 住み続けられるまちづくりを

人・情報をつなぎ新しい感動を創出

4 質の高い教育をみんなに
8 働きがいも経済成長も
9 産業と技術革新の基盤をつくろう

オープンイノベーションによる新規ビジネスの創出

4 質の高い教育をみんなに
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
17 パートナーシップで目標を達成しよう

企業活動を通じた社会課題解決

テクノロジーのチカラで地球環境へ貢献

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を

質の高い社会ネットワークの構築

9 産業と技術革新の基盤をつくろう
13 気候変動に具体的な対策を
16 平和と公正をすべての人に

レジリエントな経営基盤の発展

5 ジェンダー平等を実現しよう
8 働きがいも経済成長も
16 平和と公正をすべての人に

SoftBank